

抜 粋

若年者を対象とした3級技能検定等の
職業能力評価の拡大に向けた調査報告書

平成17年3月

中央職業能力開発協会

まえがき

この報告書は、平成16年度に厚生労働省職業能力開発局能力評価課からの委託事業に基づき、中央職業能力開発協会が行った「若年者を対象とした3級技能検定等の職業能力評価の拡大に向けた調査」の結果を取りまとめたものです。

近年、我が国の産業を支えてきた熟練した技能者の高齢化等により、優れた熟練技能の活用継承が困難になりつつあり、我が国の産業の継続的な発展のために、これらの技能を継承していく若年技能者の確保、技能労働への定着が求められています。

このような情勢の中で、厚生労働省では、若年者の技能習得意欲を増進させ、技能及び職業に関する教育訓練の成果に対する社会一般の評価を高めるため、3級の技能検定を実施し、また、実施職種の拡大に努めているところです。

本調査は、3級技能検定等の職業能力評価がより広範囲に活用されるよう、3級受検者や専門高校及び企業等に対して調査したものです。

この調査結果が、3級技能検定等の職業能力評価について関心を持つ方々のための基礎資料となれば幸いです。

この調査にご協力いただいた方々に心から感謝申し上げます。

2005年3月

中央職業能力開発協会

理事長 若林 之矩

目 次

第1章 調査の目的と方法	2
1 調査の目的	3
2 調査方法	3
3 調査項目	4
第2章 調査結果	7
1 学校関係アンケート結果	8
2 企業関係アンケート結果	27
3 3級受検者関係アンケート結果	39
第3章 調査のまとめ	60

第 1 章 調査の目的と方法

1 調査の目的

近年、若年者の未就業率や失業率が高まっていることから、若年者の技能習得意欲を増進させ、技能及び職業に関する教育訓練の成果に対する社会一般の評価を高めるため、職業高校卒業生、職業訓練修了者（何れも卒業見込みの者を含む。）等を対象とした3級の技能検定を実施し、また、実施職種の拡大に努めているところである。

今後より一層、3級技能検定等の職業能力評価が活用されるよう、3級技能検定受検者から技能検定受検の動機や目的等を調査する。

また、職業高校等における技能検定制度に対する要望、技能検定受検に際し、制約となっている事項等を把握する。さらに、3級技能検定合格者を雇用する側である企業における当該資格者に対する評価等について把握する。

2 調査方法

3級受検者、学校関係者及び企業関係者に対してアンケート調査を行った。調査は郵送法による質問紙調査である。

調査対象とした専門高校等 1,182 校の内訳は、専門高校 888 校及び厚生労働省認可の専修学校・各種学校 344 校である。企業 1,854 社の内訳は、全国の技能検定制度活用企業 1,071 社及び技能検定委員関係企業 783 社である。また、3級受検者については、平成16年度前期3級学科試験の受検者 6,642 名を対象とした。

調査票の配布・回収は、平成16年7月中旬から8月上旬にかけて行った。

配布数・回収数及び回収率は下表のとおりである。

対象	配付数	回収数	回収率	調査方法
学校	1,182	411	35%	郵送
企業	1,854	673	36%	郵送
受検者	6,642	6,216	94%	学科試験日に実施・回収

3 調査項目

(1) 学校関係アンケート

イ 属性

学校区分

ロ 技能検定

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1 技能検定の取り組み | 17 技能五輪 |
| 2 受検予定のある3級職種 | 18 技能検定についての意見 |
| 3 実施を希望する3級職種(作業) | 19 上位級の受検 |
| 4 技能検定に対する評価 | 20 合格発表の早期化 |
| 5 受検料 | 21 カリキュラムの変更 |
| 6 受検資格要件の緩和 | 22 受検勸奨時期の変更 |
| 7 技能検定のイメージ | 23 実技試験指導者 |
| 8 指導教員の合格状況 | 24 実技試験訓練時間 |
| 9 技能検定で知りたい情報 | 25 実技試験教材 |
| 10 情報の入手経路 | 26 実習場 |
| 11 技能検定普及・拡大 | 27 材料費の負担者 |
| 12 学校推薦の要素 | 28 材料費の額 |
| 13 検定合格が与える影響 | 29 学科試験対策 |
| 14 就職に有利な職種 | 30 学科試験教材 |
| 15 受検勸奨を行っている資格 | 31 参考書の購入先 |
| 16 高度熟練技能者の活用制度 | |

(2) 企業関係アンケート

イ 属性

- 1 業種別
- 2 従業員数
- 3 技能検定合格者数

ロ 技能検定

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 技能検定の取り組み | 5 採用と技能検定資格 |
| 2 従業員に求める受検合格目標 | 6 評価する資格 |
| 3 3級技能士の評価 | 7 技能検定についての要望 |
| 4 技能検定関係情報 | |

(3) 3級受検者アンケート

イ 属性

- 1 年齢
- 2 性別
- 3 年齢別性別
- 4 受検職種(作業)
- 5 受検者区分
- 6 学校(学校区分、学年)
- 7 事業所・経験年数(業種・従業者数・経験年数)

ロ 技能検定(実技試験)

- 1 受検対策
- 2 受検のための教材
- 3 受検準備時間
- 4 受検した感想

ハ 技能検定(学科試験)

- 1 受検対策
- 2 受検のための教材
- 3 受検準備時間
- 4 受検した感想

ニ 技能検定制度全体

- 1 技能検定制度を知った方法
- 2 受検の動機
- 3 職種選択の理由
- 4 職種に対する適正
- 5 技能検定で欲しかった情報
- 6 受検職種と就業との関係
- 7 今後の受検予定
- 8 受検を通して身に付いたこと

- 9 技能検定のイメージ
- 10 取得したい資格
- 11 取得している資格
- 12 技能検定についての要望

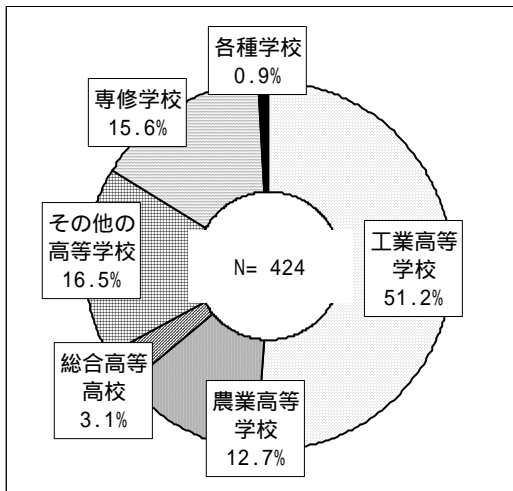
第 2 章 調査結果

1 学校関係アンケート結果

* 報告書内のクロス集計をもとに作成したグラフについては、「無回答」を削除

1. 調査回答者の属性

(1) 学校区分別

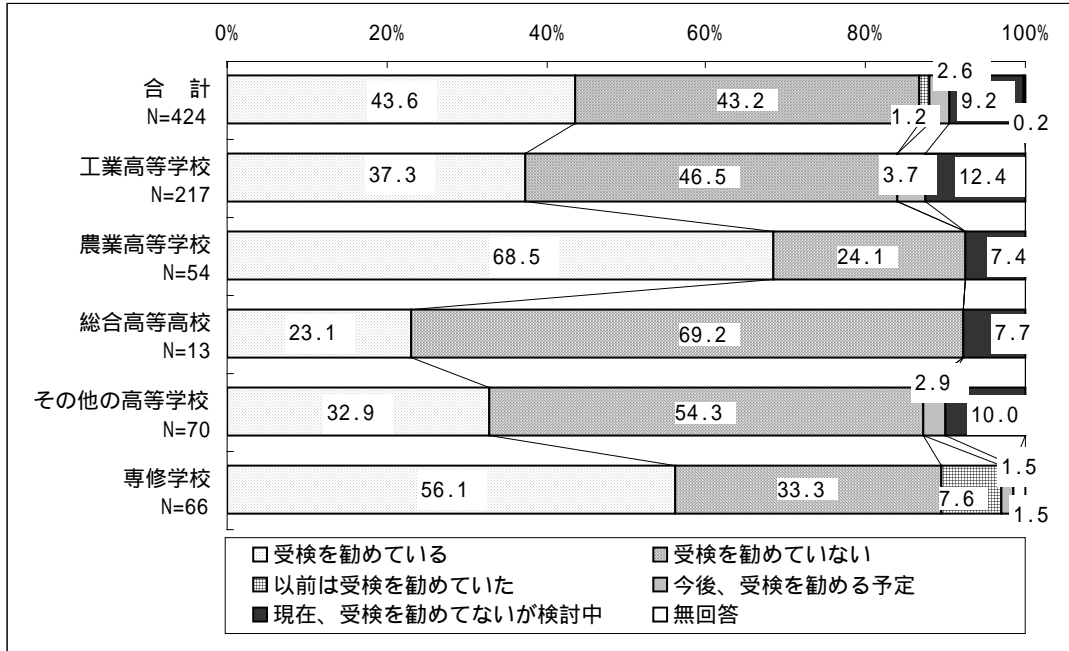


業種別に見ると、「工業高等学校」が51.2%で最も多く、以下「その他の高等学校」(16.5%)、「専修学校」(15.6%)となっている。

2. 技能検定について

(1) 技能検定の取り組み

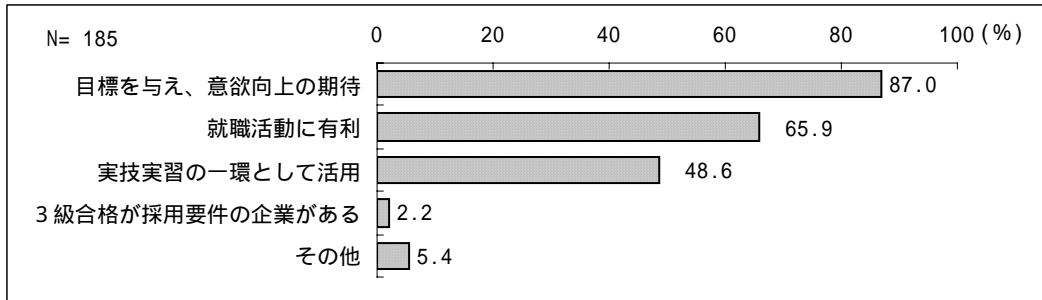
技能検定の取り組み状況



* 回答者数の少ない「各種学校」(N=4)についてはグラフから削除(以下同様)
 技能検定の取り組みについて見ると、「生徒(学生)に技能検定の受検を勧めて(課して)いる」が43.6%、「生徒(学生)に技能検定の受検を勧めて(課して)いない」が43.2%となっている。

学校区分別に見ると、「農業高等学校」では「生徒(学生)に技能検定の受検を勧めて(課して)いる」割合が7割近くを占めている。

生徒（学生）に技能検定を勧めて(課して)いる理由 [複数回答]



で「生徒（学生）に技能検定の受検を勧めて(課して)いる」と回答した 185 校に尋ねた。生徒（学生）に技能検定を勧めて(課して)いる理由について見ると、「技能士取得という目標を与えることで、意欲の向上が期待できるため」が 87.0%で、全体の9割近くを占めている。

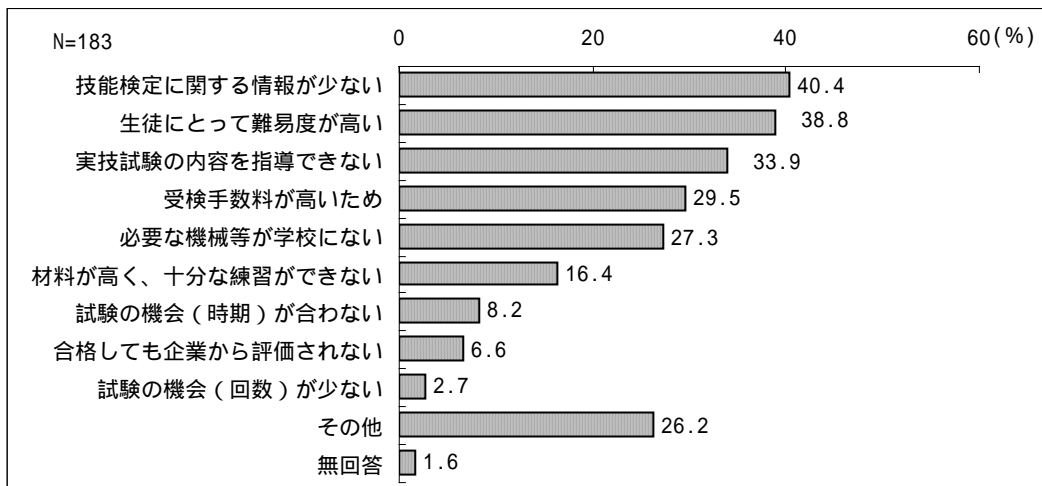
受検を勧めて(課して)いる職種（作業） [複数回答]

順位	職種名（作業）	件数
1	機械加工（普通旋盤作業）	78
2	園芸装飾 （室内園芸装飾作業）	32
3	造園（造園工事作業）	31
4	機械加工 （フライス盤作業）	17
5	和裁（和服製作作業）	14

で「生徒（学生）に技能検定の受検を勧めて(課して)いる」と回答した 185 校に尋ねた。受検を勧めて(課して)いる職種（作業）について上位5項目を左記に記載した。

「機械加工（普通旋盤作業）」が 78 件で最も多く、次いで「園芸装飾（室内園芸装飾作業）」（32件）、「造園（造園工事作業）」（31件）となっている。

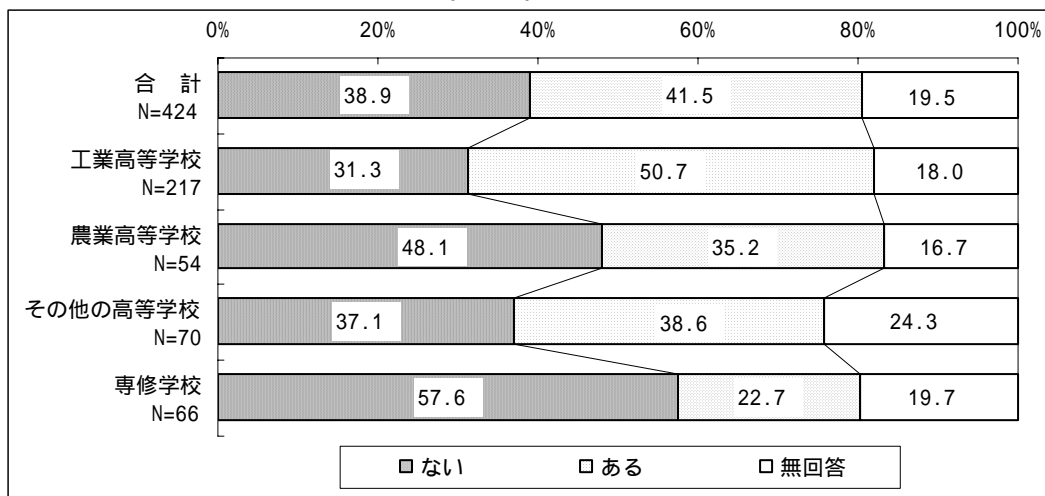
生徒（学生）に技能検定を勧めて(課して)いない理由 [複数回答]



で「生徒（学生）に技能検定の受検を勧めて(課して)いない」と回答した 183 校に尋ねた。生徒（学生）に技能検定の受検を勧めて(課して)いない理由について見ると、「試験内容がわからないなど、技能検定に関する情報が少ないため」が 40.4%で最も多く、次いで「生徒（学生）にとって難易度が高いため」（38.8%）となっている。その他には「他の資格取得に取り組んでいるため時間がない」、「関連する科目がない」という意見が多かった。

(2) 興味のある3級技能検定職種(作業)

興味のある3級技能検定職種(作業)の有無



* 回答者数の少ない「総合高等学校」(N=13)についてはグラフから削除

「既に受検を勧めている」、「過去に受検を勧めていた」又は「現在、受検を検討中」等の職種(作業)のほかで興味のある3級技能検定の職種(作業)の有無について見ると、「ある」が41.5%、「ない」が38.9%となっている。

学校区分別に見ると、「工業高等学校」では興味のある職種(作業)が「ある」割合が高く、「専修学校」では「ない」割合が高くなっている。

興味のある職種(作業) [複数回答]

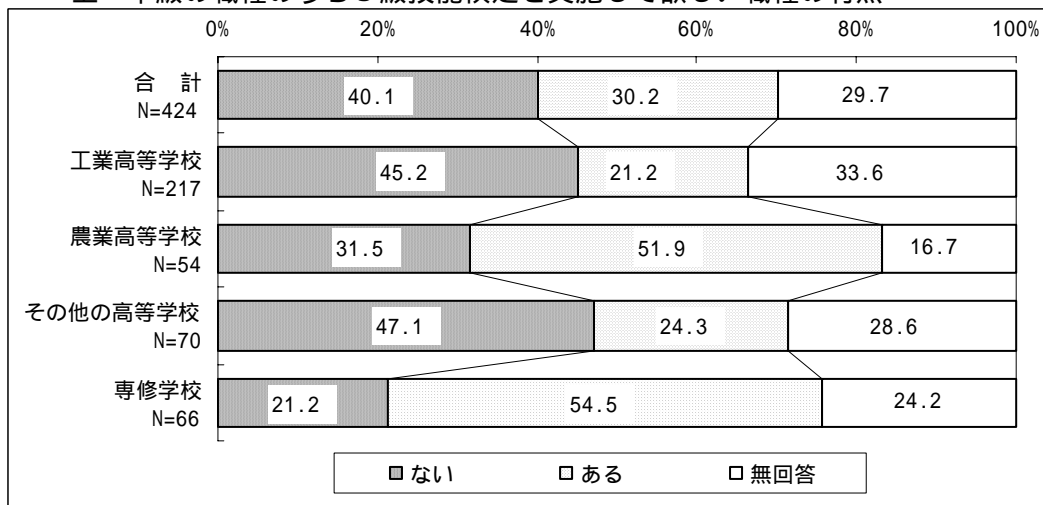
順位	職種名(作業)	件数
1	機械加工 (フライス盤作業)	59
2	機械加工 (マシニングセンタ作業)	52
3	機械加工 (数値制御旋盤作業)	47
4	機械加工(普通旋盤作業)	40
5	電気機器組立て (シーケンス制御作業)	34

で「興味のある技能検定3級がある」と回答した176校に尋ねた。興味のある職種(作業)について上位5項目を左記に記載した。

「機械加工(フライス盤作業)」が59件で最も多く、次いで「機械加工(マシニングセンタ作業)」(52件)、「機械加工(数値制御旋盤作業)」(47件)となっている。

(3) 実施を希望する3級職種

上・中級の職種のうち3級技能検定を実施して欲しい職種の有無



上・中級の職種のうち3級技能検定を実施して欲しい職種の有無について見ると、「ない」が40.1%、「ある」が30.2%となっている。

学校区分別に見ると、「農業高等学校」では実施して欲しい職種が「ある」割合が51.9%で全体の半数を占めている。

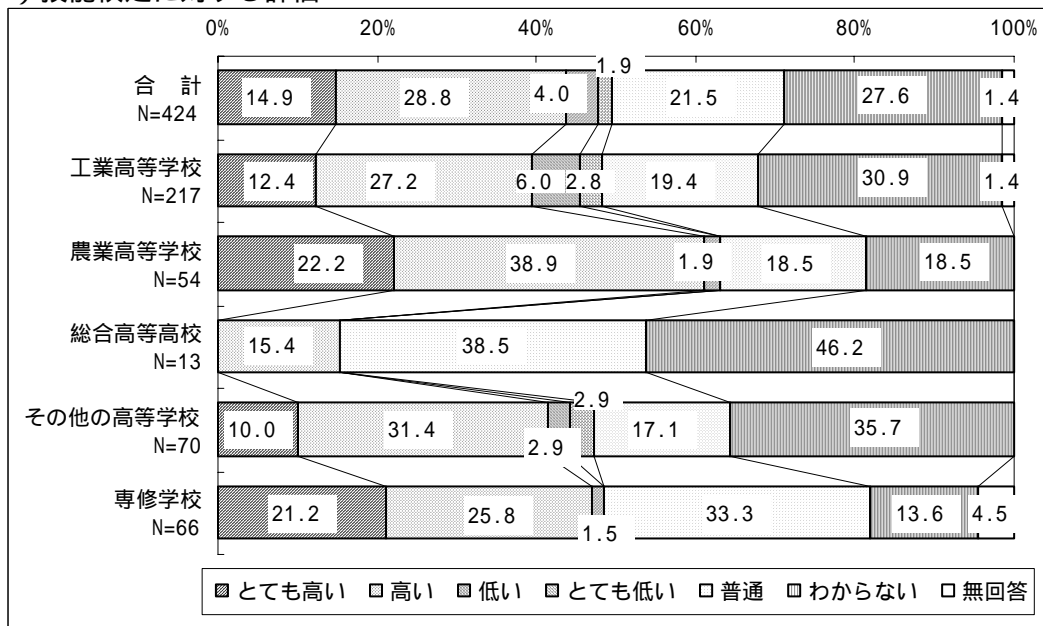
実施して欲しい職種 [複数回答]

順位	職種名	件数
1	フラワー装飾	32
2	パン製造	19
3	菓子製造	18
4	鋳造	14
5	電子回路接続	15

で「上・中級の職種のうち3級技能検定を実施して欲しい職種がある」と回答した128校に尋ねた。興味のある職種について上位5項目を左記に記載した。

「フラワー装飾」が32件で最も多く、次いで「パン製造」(19件)、「菓子製造」(18件)となっている。

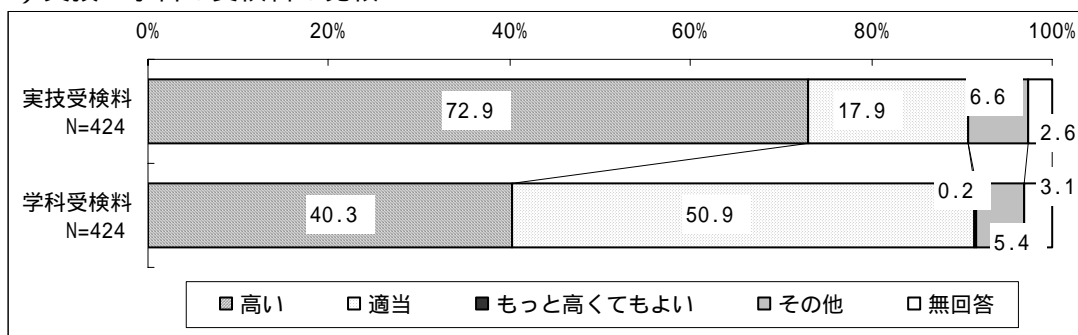
(4) 技能検定に対する評価



技能検定に対する評価について見ると、「高い」が 28.8%で最も多く、次いで「わからない」(27.6%)、「普通」(21.5%)となっている。

学校区分別に見ると、「農業高等学校」では「高い」と「とても高い」の両者をあわせた「高い」割合が 61.1%で全体の 6 割を占めている。

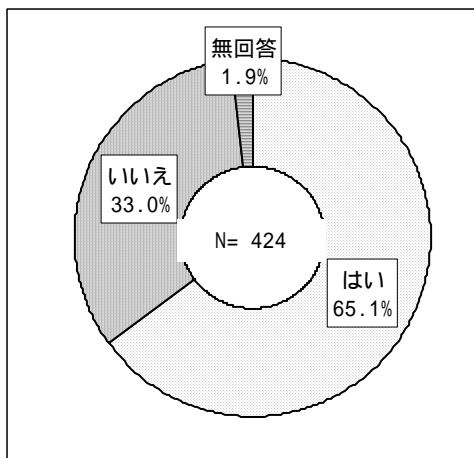
(5) 実技・学科の受検料の比較



実技試験と学科試験の受検料の比較について見ると、「実技受検料」は「高い」割合が 72.9%で最も高く、反対に「学科受検料」は「適当」が最も多くなっている。

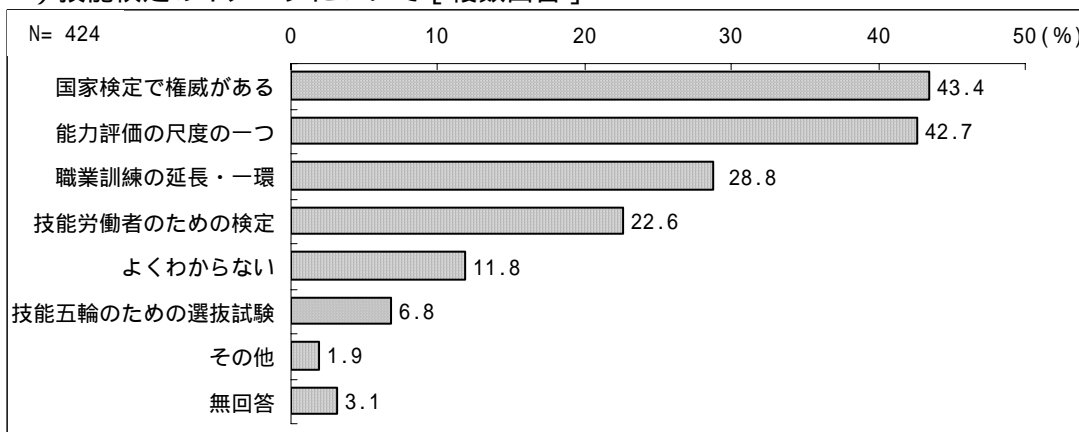
「実技受検料」と「学科受検料」を比較すると「実技受検料」の方が高いと考えられている傾向がある。

(6) 受検資格要件の緩和についての周知状況



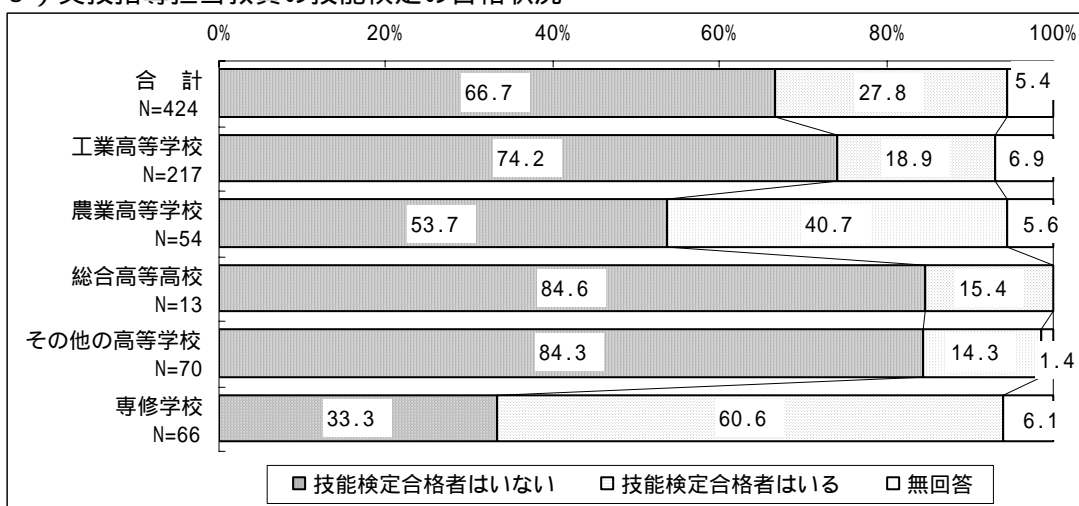
技能検定の受検資格要件の緩和について周知状況を見ると、「はい」が65.1%で全体の6割強が受検資格が緩和されたことを知っている。

(7) 技能検定のイメージについて [複数回答]



技能検定のイメージについて見ると、「国家検定で権威がある」が43.4%で最も多く、次いで「世の中に数多くある能力評価の尺度の一つ」(42.7%)となっている。

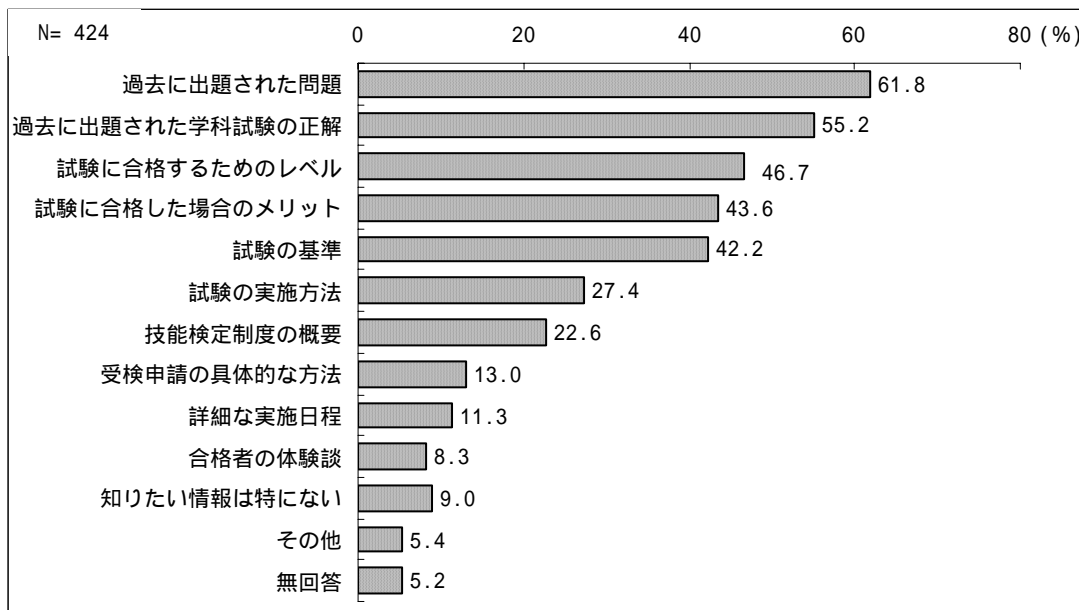
(8) 実技指導担当教員の技能検定の合格状況



実技指導担当教員の技能検定の合格状況について見ると、「技能検定合格者はいない」が66.7%で全体の6割強を占めている。

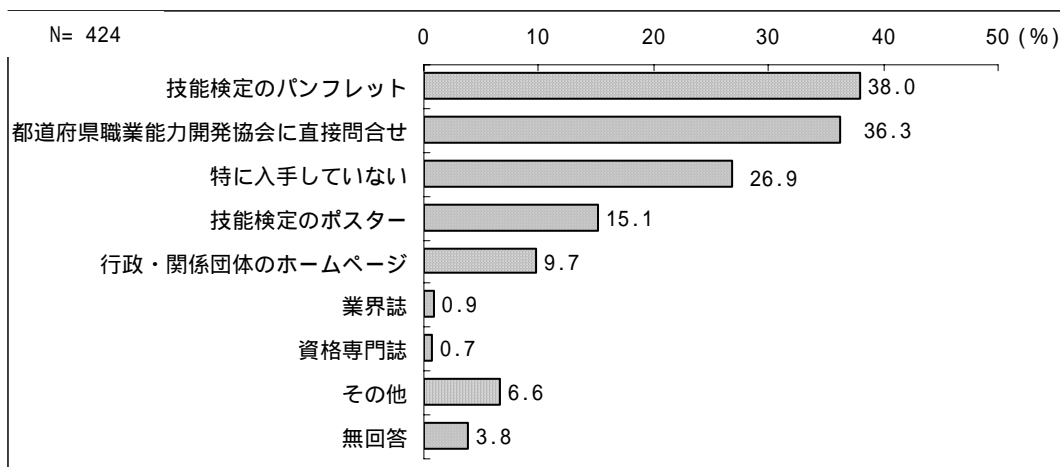
学校区分別に見ると、どの学校区分でも「技能検定合格者はいない」割合が高くなっているが、「専修学校」では「技能検定合格者はいる」が60.6%となっている。

(9) 技能検定について知りたい情報 [複数回答]



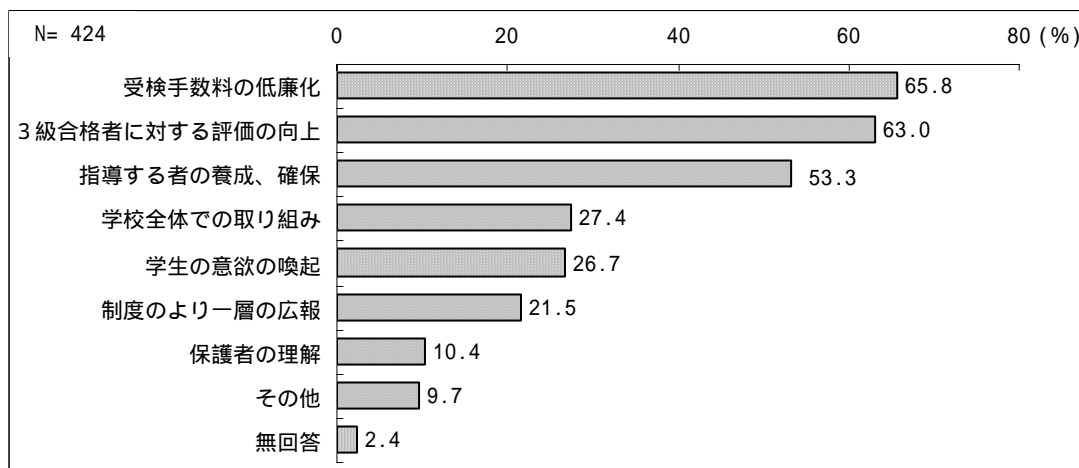
技能検定関連の知りたい情報について見ると、「過去に出題された問題（実技・学科）」が 61.8%で最も多く、次いで「過去に出題された学科試験の正解」（55.2%）となっている。

(10) 技能検定に関する情報の入手経路 [複数回答]



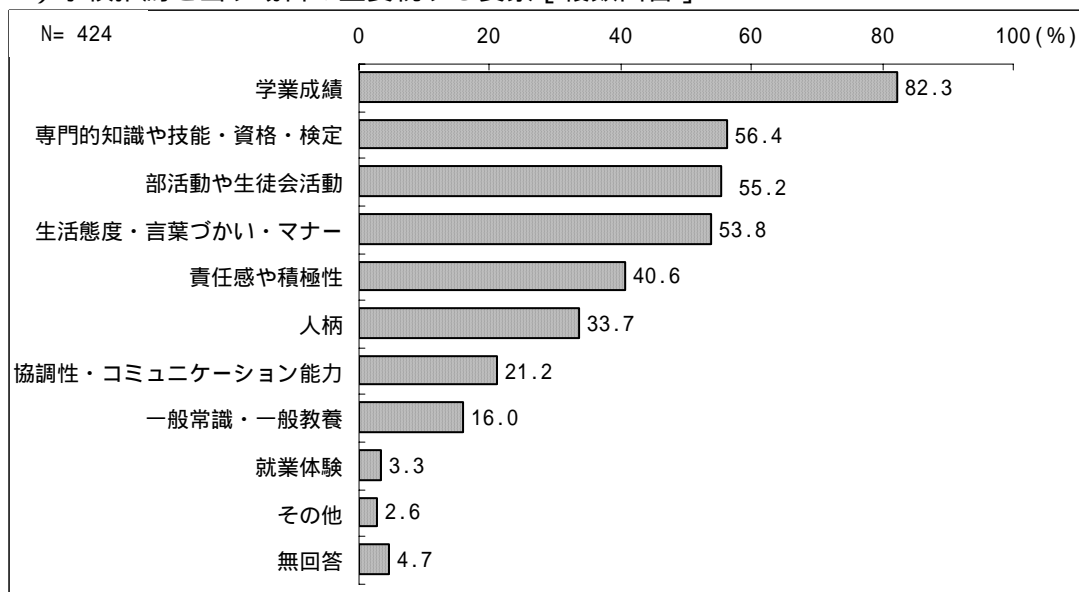
技能検定に関する情報の入手経路について見ると、「技能検定のパンフレットを見て」が 38.0%で最も多く、次いで「都道府県職業能力開発協会に直接問合せ」（36.3%）となっている。

(11) 技能検定を普及、拡大させるために必要なこと [複数回答]



技能検定を生徒（学生）に普及、拡大させるために必要なことについて見ると、「受検手数料の低廉化」が 65.8%で最も多く、次いで「企業における3級受検合格者に対する評価の向上」(63.0%)となっている。

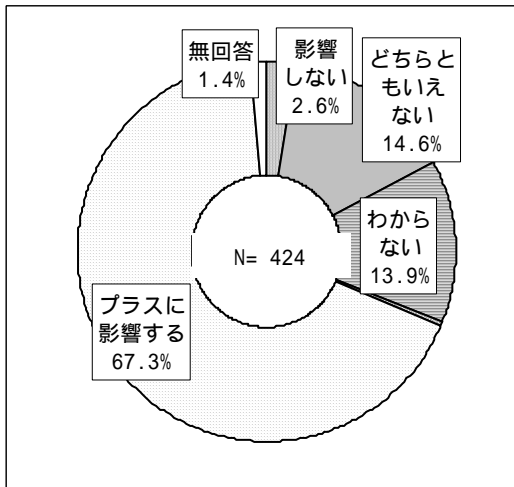
(12) 学校推薦を出す場合の重要視する要素 [複数回答]



学校推薦を出す場合の重要視する要素について見ると、「学業成績」が 82.3%で最も多く、次いで「専門的知識や技能・資格・検定」(56.4%)、「部活動や生徒会活動」(55.2%)、「基本的な生活態度・言葉づかい・マナー」(53.8%)となっている。

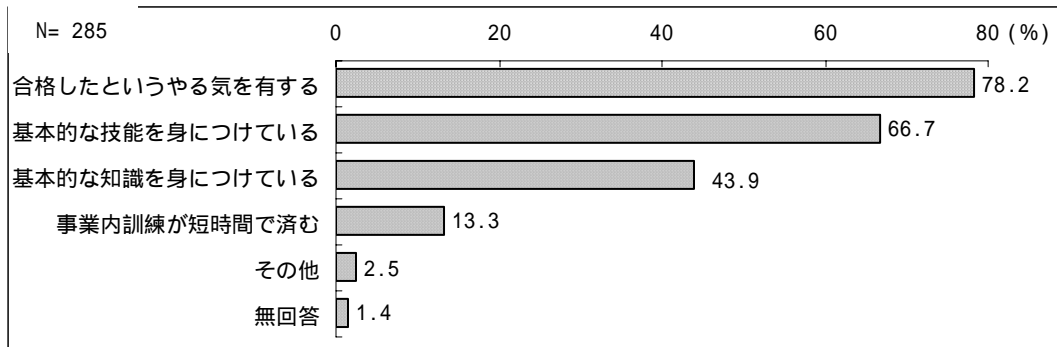
(13) 技能検定合格が与える影響

就職活動に与える影響



技能検定の合格が就職活動に影響するかどうかについて見ると、「プラスに影響する」が 67.3%で全体の7割近くを占めている。

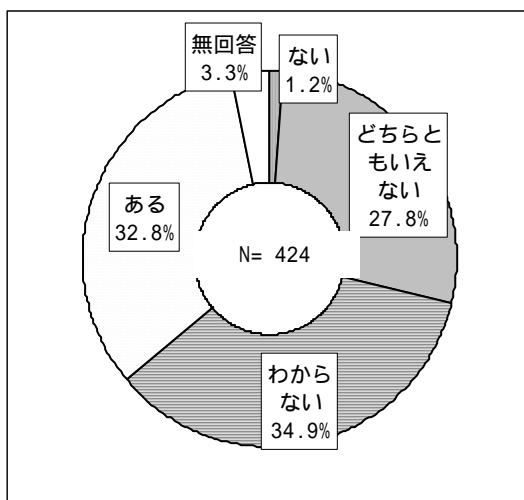
プラスに影響する内容 [複数回答]



で技能検定が就職活動で「プラスに影響する」と回答した 285 校に尋ねた。プラスに影響する内容について見ると、「技能検定を受検し合格したというやる気・意欲を有することが好影響」が 78.2%で最も多くなっている。

(14) 就職に有利になる職種（作業）

就職に有利になる職種（作業）の有無



技能検定に合格することで就職活動に有利になる職種（作業）の有無について見ると、「わからない」が 34.9%で最も多く、次いで「ある」（32.8%）となっている。

就職に有利になる職種（作業）

順位	職種名（作業）	件数
1	機械加工（普通旋盤作業）	35
2	造園（造園工事作業）	25
3	機械加工（フライス盤作業）	9
4	機械加工（数値制御旋盤作業）	7
5	園芸装飾（室内園芸装飾作業）	6

技能検定に合格することで就職が有利になる職種（作業）が「ある」と回答した 139 校に尋ねた。

記述された職種（作業）名を関連性のある名称でまとめ、上位 5 項目を左記に記載した。

就職に有利になる職種（作業）は、「機械加工（普通旋盤作業）」が 35 件で最も多く、次いで「造園（造園工事作業）」（25 件）、「機械加工（フライス盤作業）」（9 件）となっている。

(15) 技能検定以外で受検を勧めている資格

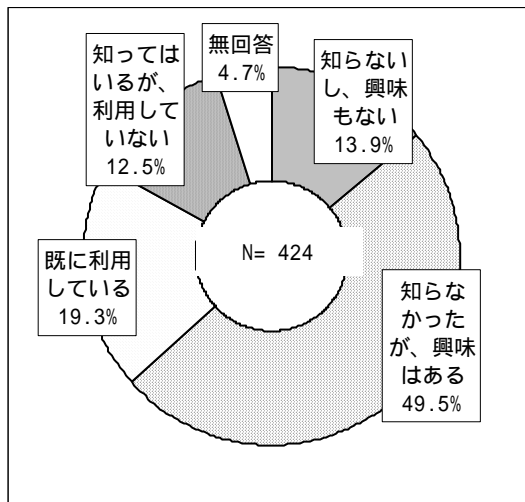
順位	資格名	件数
1	危険物関連	212
2	電気工事関連	144
3	ボイラー関連	112
4	ガス溶接関連	71
5	情報技能関連	69

技能検定以外で受検を勧めて(課して)いる資格を記述式で尋ねた。424校中327校から回答を得ることができた。

記述された資格名を関連性のある名称でまとめ、上位 5 項目を左記に記載した。

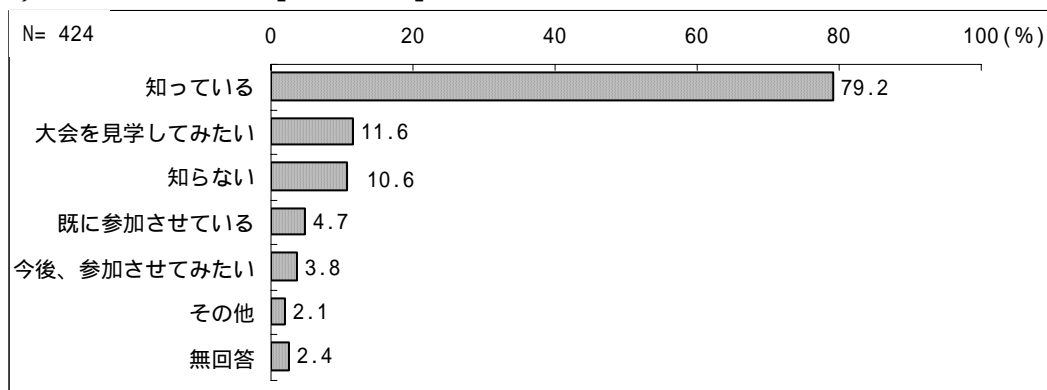
技能検定以外で評価される資格は、「危険物関連」が212件で最も多く、次いで「電気工事関連」（144件）、「ボイラー関連」（112件）となっている。

(16) 高度熟練技能者を活用する事業の認知度



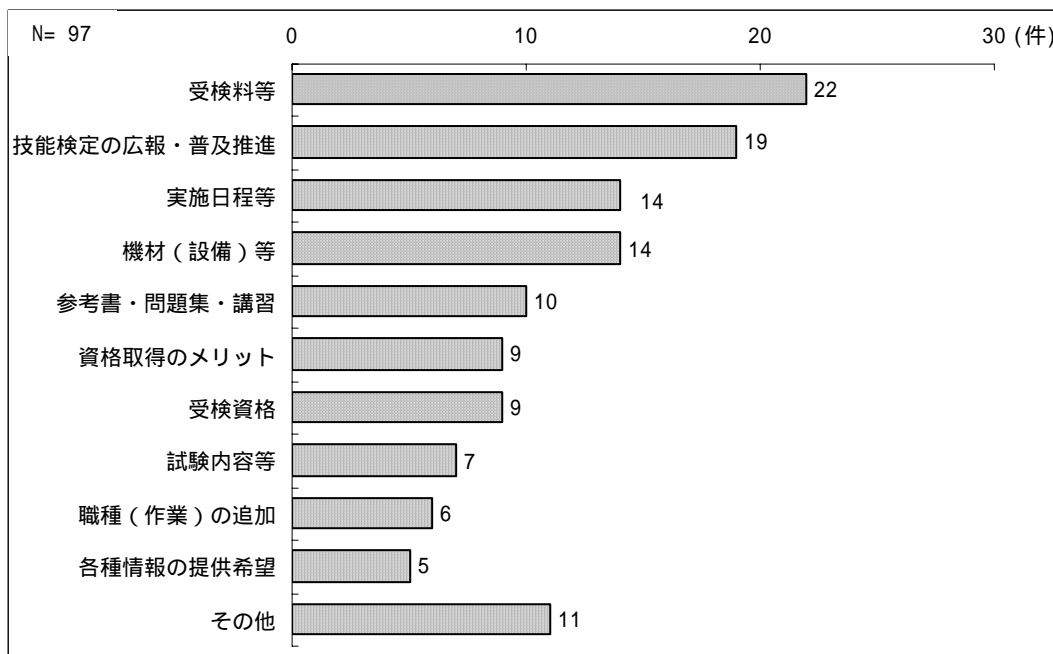
高度熟練技術者を活用する事業の認知度について見ると、「知らなかつたが、興味はある」割合が49.5%と全体の約半数を占めている。

(17) 技能五輪の認知度 [複数回答]



技能五輪地方大会や技能五輪全国大会の認知度について見ると、「知っている」が79.2%で最も多く、次いで「大会を見学してみたい」(11.6%)となっている。

(18) 技能検定に対する意見・要望 [複数回答]



技能検定に対する意見・要望について記述式で尋ねた。424 校中 97 校から回答を得ることができた。

一番多い意見・要望は「受検料等」(22 件)で、次いで「技能検定の広報・普及推進」(19 件)、「実施日程等」(14 件)、「機材(設備)等」(14 件)となっている。

意見・要望が多かった上位 4 項目に含まれる記述内容を下記にまとめた。

< 受検料等について >

- ・ 受検料が高すぎる
- ・ 高校生には負担が大きい

< 技能検定の広報・普及推進について >

- ・ 知名度が低い
- ・ 広報活動をもっとすべき
- ・ 文部科学省等と連携して活動したほうがいい

< 実施日程等について >

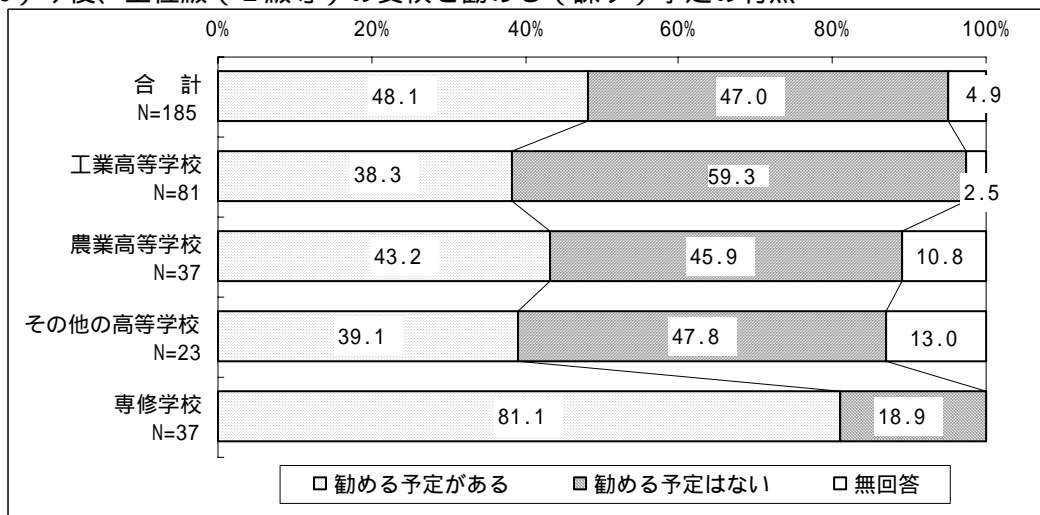
- ・ 受検申請時期の変更
- ・ 試験回数の増加

< 機材(設備)等について >

- ・ 学校に指導・設備が足りない
- ・ 設備を充実させる必要がある

以下の質問は 2.(1)で技能検定の受検を勧めて(課して)いると回答した 185 校が対象

(19) 今後、上位級(2級等)の受検を勧める(課す)予定の有無



* 回答者数の少ない「総合高等学校」(N=3)についてはグラフから削除(以下同様)

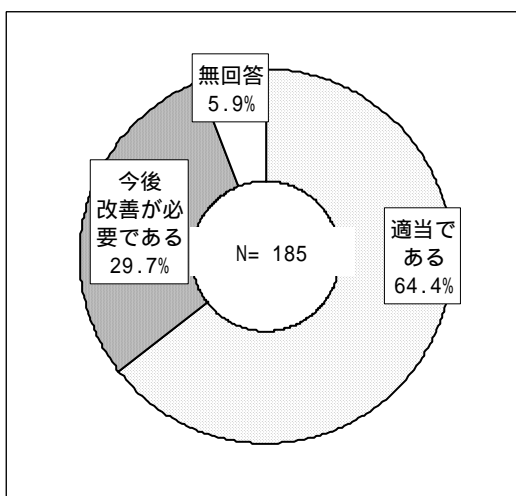
今後、上位級を勧める(課す)予定について見ると、「上位級の受検を勧める(課す)予定がある」が 48.1%、「上位級の受検を勧める(課す)予定はない」が 47.0%と予定がある、ないがほぼ同じ割合となっている。

学校区分別に見ると、「専修学校」では「上位級の受検を勧める(課す)予定がある」割合が 81.1%で全体の 8 割を占めている。

「勧める(課す)予定がある」理由には、「技能向上のため」、「就職活動のため」、「意欲向上のため」という意見が多かった。

「勧める(課す)予定はない」理由には、「時間的に苦しい」、「3級で十分」、「レベルが高い」という意見が多かった。

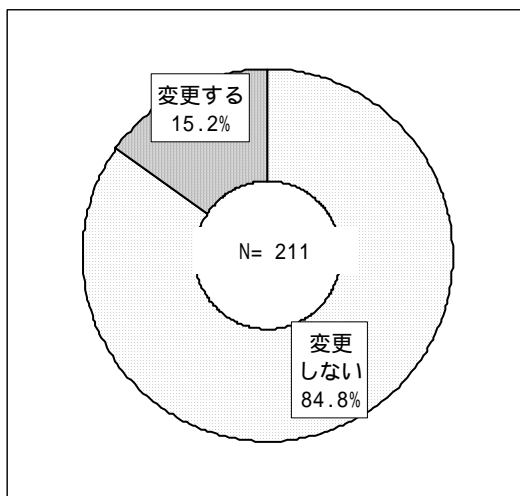
(20) 3級合格発表時期の早期化



就職活動に役立てるための3級の合格発表時期の早期化について見ると、「適当であった」が 64.4%で全体の 6 割を占めている。「今後改善が必要である」理由としては、「合格発表を早めて欲しい」という意見が多かった。

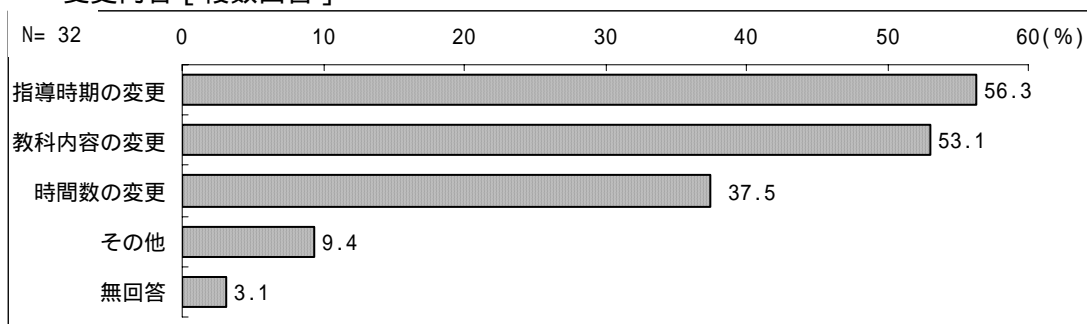
(21) カリキュラム等の変更

カリキュラム等の変更の有無



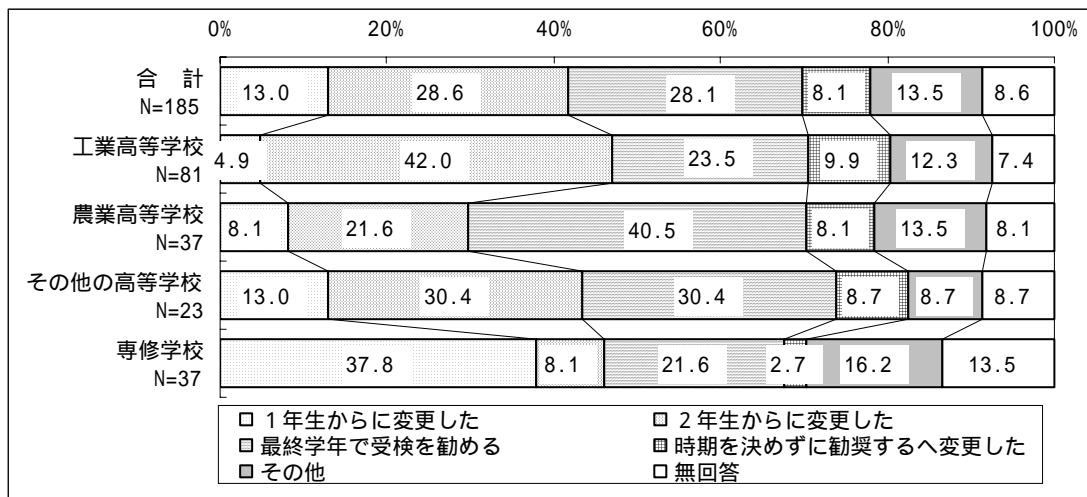
受検資格要件が緩和されたことに伴うカリキュラム等の変更の有無について見ると、「変更しない」割合が 84.8%で全体の 8 割を占めている。

変更内容 [複数回答]



でカリキュラム等を「変更する（又は変更した）」と回答した 32 校に尋ねた。変更内容について見ると、「指導時期の変更」が 56.3%で最も多く、次いで「教科内容の変更」（53.1%）となっている。

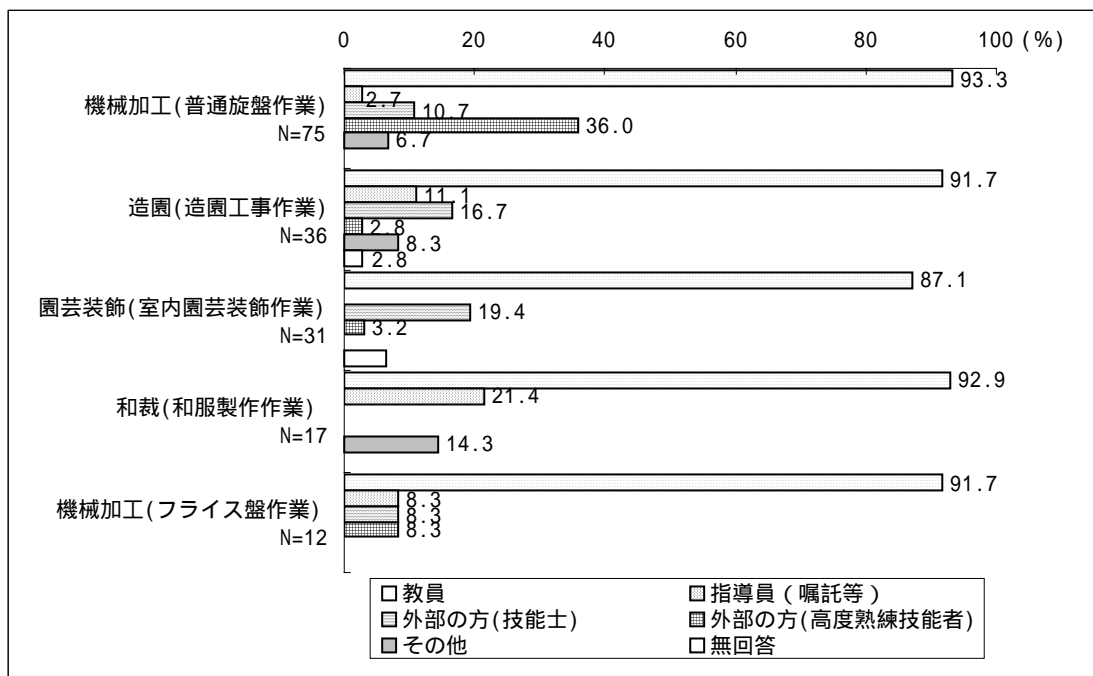
(22) 受検勸奨時期の変更



受検資格要件が緩和されたことに伴う生徒（学生）に対しての技能検定の受検を勧める（課す）時期の変更について見ると、「2年生から受検を勧めるように変更した」（28.6%）、「最終学年で受検を勧める（変更なし）」（28.1%）となっている。学校区分別に見ると、「工業高等学校」では「2年生から受検を勧めるように変更した」（42.0%）が多く、「専修学校」では「1年生から受検を勧めるように変更した」（37.8%）が多くなっている。

< 実技試験について >

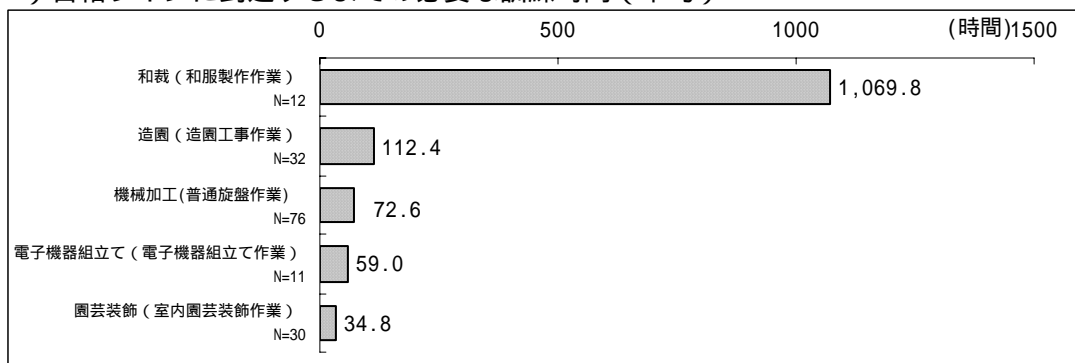
(23) 職種（作業）別の実技試験指導者



* 回答してもらった職種(作業)のうち、母数の多い上位5項目についてグラフ化

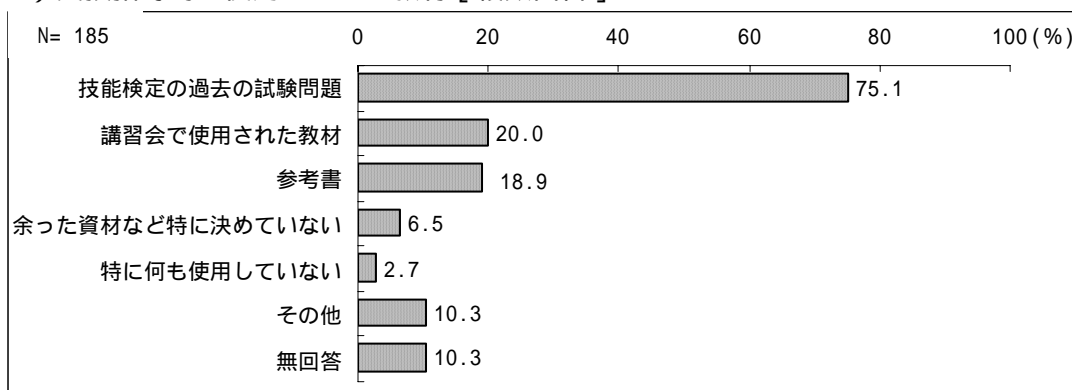
職種（作業）別の実技試験指導者について見ると、全体的にどの職種（作業）でも「教員」という割合が9割前後となっている。「機械加工（普通旋盤作業）」では他の職種（作業）より「外部の方（高度熟練技能者）」の割合が36.0%と高くなっている。

(24) 合格ラインに到達するまでの必要な訓練時間(平均)



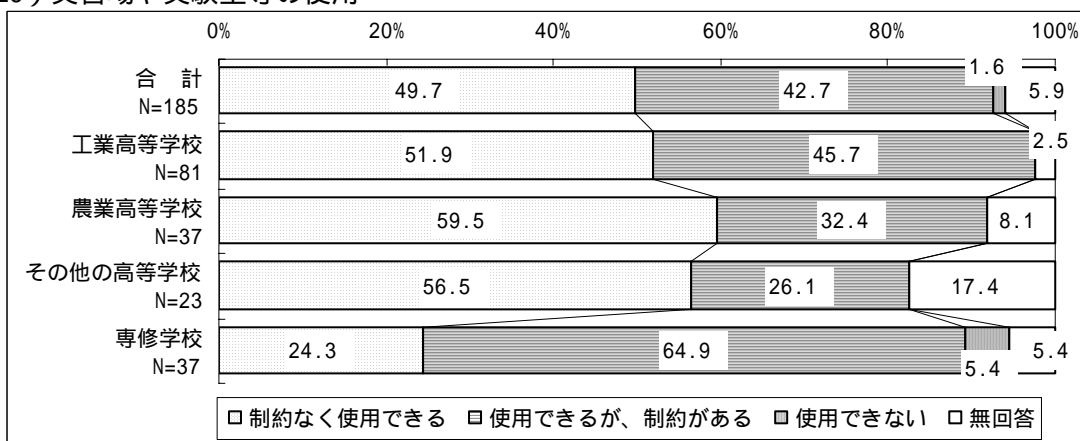
* 回答してもらった職種(作業)のうち、母数の多い上位5項目についてグラフ化
 職種(作業)別に合格ラインに到達するまでに必要な時間(平均)について見ると、「和裁(和服製作作業)」1,069.8時間で最も時間を費やしている。

(25) 実技指導時に使用している教材[複数回答]



実技指導時に使用している教材について見ると、「技能検定の過去の試験問題」が75.1%で最も多く、次いで「講習会において使用された教材」(20.0%)となっている。

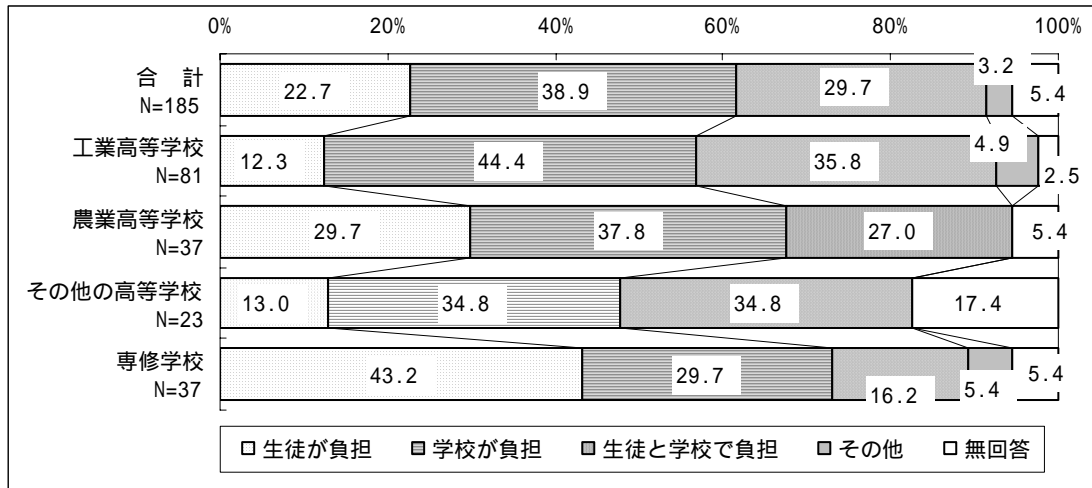
(26) 実習場や実験室等の使用



放課後、夏休み等の実習場や実験室等の使用が可能かどうかについて見ると、「制約なく使用できる」が49.7%、「使用できない」は1.6%となっている。

学校区分別に見ると、「専修学校」では他の学校区分に比べ、「使用できるが、制約がある」割合が64.9%と高くなっている。「使用できるが、制約がある」具体的な例としては、「定時制と共用のため」、「使用時間が決まっている」という意見が多かった。

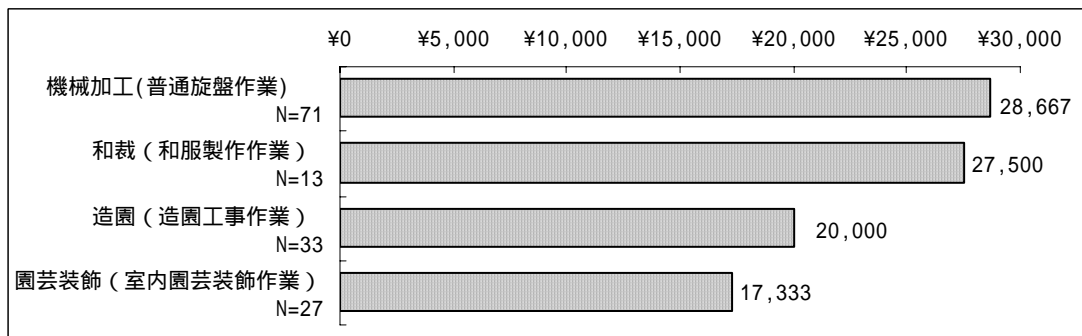
(27) 補習において使用する材料費の負担



補習で使用する材料に係る費用の負担について見ると、「学校が負担」が 38.9% で最も多くなっている。

学校区分別に見ると、どの学校区分でも「学校が負担」が多くなっているが、「専修学校」では他の学校区分に比べ「生徒が負担」している割合が 43.2% と高くなっている。

(28) 補習などで使用する材料費 1 人当たりの金額 (平均)

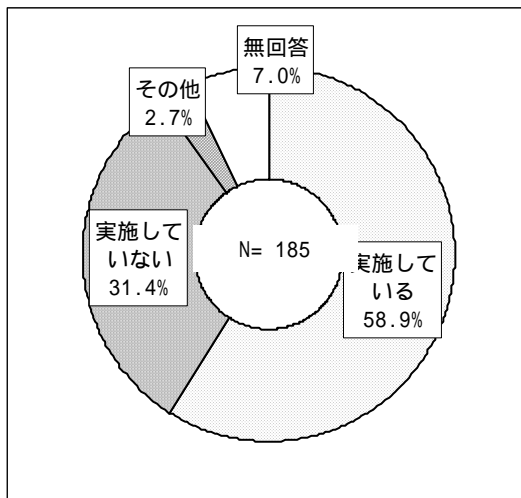


* 回答してもらった職種(作業)のうち、母数の多い上位 4 項目についてグラフ化

職種 (作業) 別に補習などで使用する材料費 1 人当たりの金額 (平均) について見ると、「機械加工 (普通旋盤作業)」が 28,667 円で最も高く、次いで「和裁 (和服製作作業)」 (27,500 円) となっている。

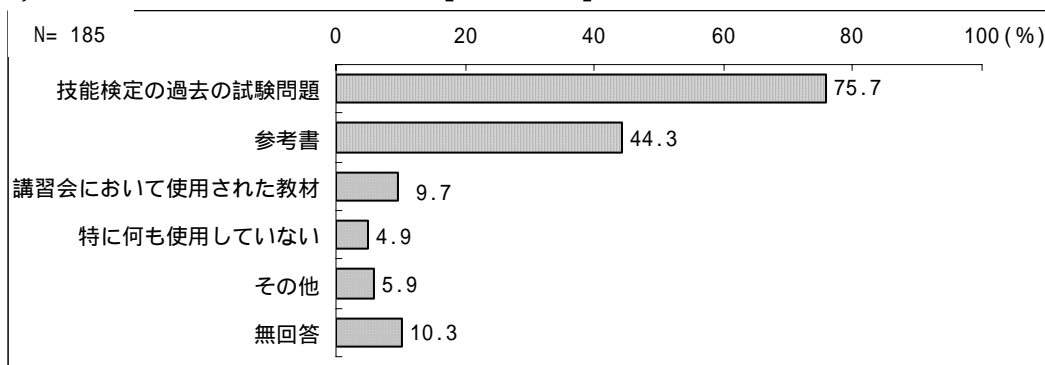
< 学科試験について >

(29) 学科試験対策準備講習会等の実施



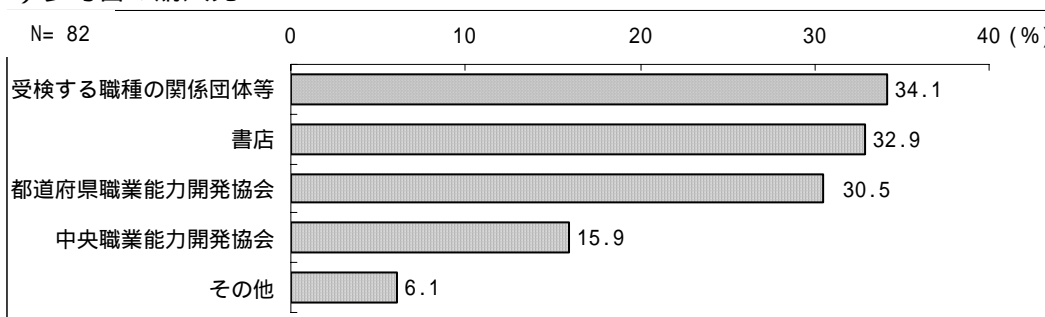
通常の授業以外の学科試験対策準備講習会等の実施について見ると、「実施している」が 58.9%と全体の6割近くを占めている。

(30) 学科指導時に使用している教材 [複数回答]



学科指導時に使用している教材について見ると、「技能検定の過去の試験問題」が 75.7%で最も多く、次いで「参考書」(44.3%)となっている。

(31) 参考書の購入先

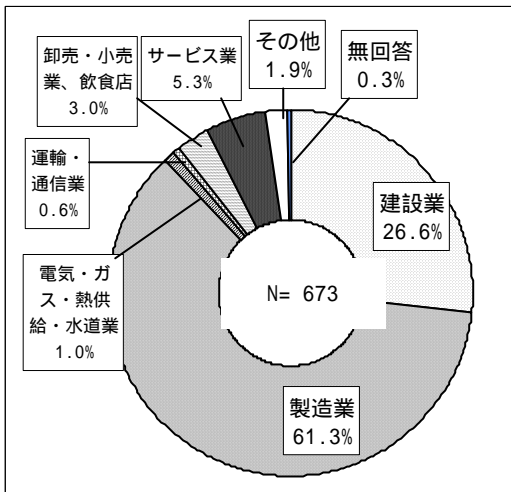


で学科指導時に使用している教材として「参考書」と回答した 82 校に尋ねた。参考書の購入先について見ると、「受検する職種の関係団体等から購入」が 34.1%で最も多く、次いで「書店で購入」(32.9%)、「都道府県職業能力開発協会から購入」(30.5%)となっている。

2 企業関係アンケート結果

1. 調査回答者の属性

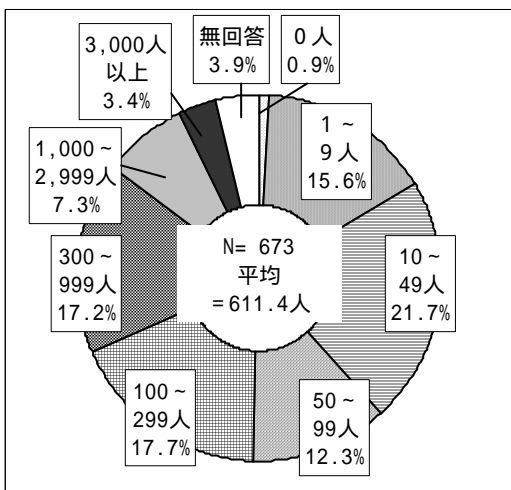
(1) 業種別



業種別に見ると、「製造業」が 61.3% で最も多く、次いで「建設業」(26.6%) となっている。

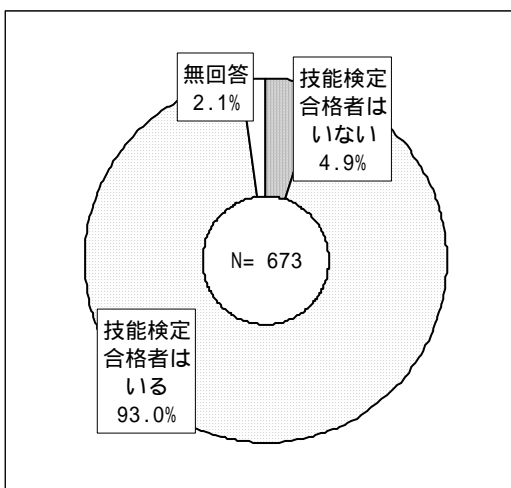
(2) 技能・技術系従業員について

従業員数



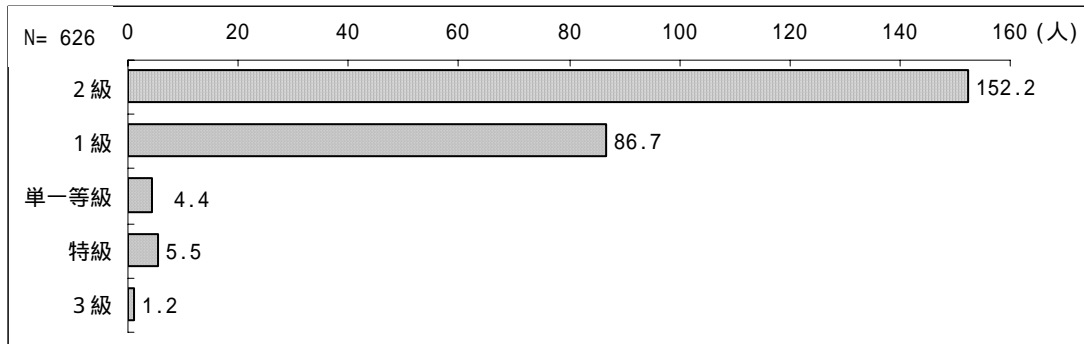
技能・技術系従業員数について見ると、「10~49人」が 21.7% で最も多く、次いで「100~299人」(17.7%)、「300~999人」(17.2%) となっている。平均従業員数は 611.4 人だった。

技能検定合格者の有無



技能・技術系従業員のうち技能検定合格者(技能士)の有無について見ると、「技能検定合格者(技能士)はいる」割合が 93.0% で、全体の 9 割強を占めている。

等級別技能検定合格者数（1事業所当たりの平均）

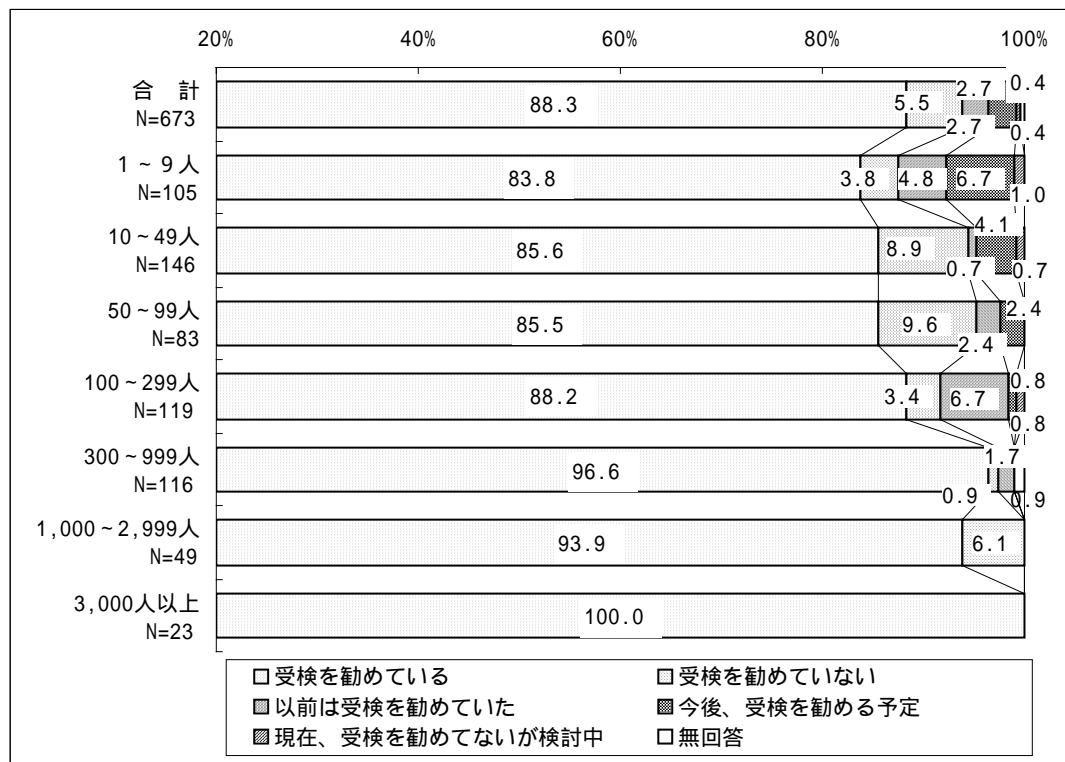


で「技能検定合格者(技能士)はいる」と回答した 626 事業所に尋ねた。等級ごとの技能検定合格者数の平均について見ると、「2級」が 152.2 人で最も多く、次いで「1級」(86.7 人)となっている。

2. 技能検定について

(1) 技能検定の取り組み

技能検定の取り組み状況

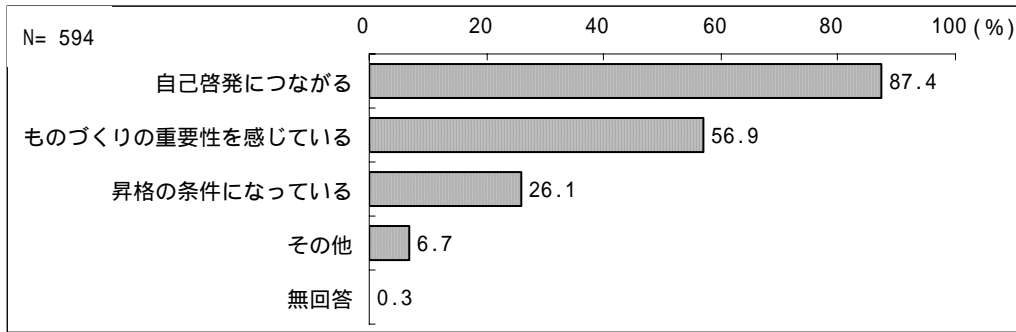


* 回答者数の少ない「0人」(N=6)についてはグラフから削除(以下同様)

技能検定への取り組み状況について見ると、「従業員に技能検定の受検を勧めて(課して)いる」が 88.3%で最も多く、全体の9割近くとなっている。

技能・技術系従業員規模で見ると、「従業員に技能検定の受検を勧めて(課して)いる」割合が「3,000人以上」では 100.0%、「300～999人」では 96.6%と高く、従業員規模が大きくなると従業員に受検を勧めている割合が高くなっている。

従業員に技能検定を勧めて(課して)いる理由 [複数回答]



で「従業員に技能検定の受検を勧めて(課して)いる」と回答した 594 事業所に尋ねた。従業員に技能検定の受検を勧めて(課して)いる理由について見ると、「自己啓発(技能習得意欲を増進)につながるから」が 87.4%で最も多く、次いで「ものづくりの重要性を感じているから」(56.9%)となっている。

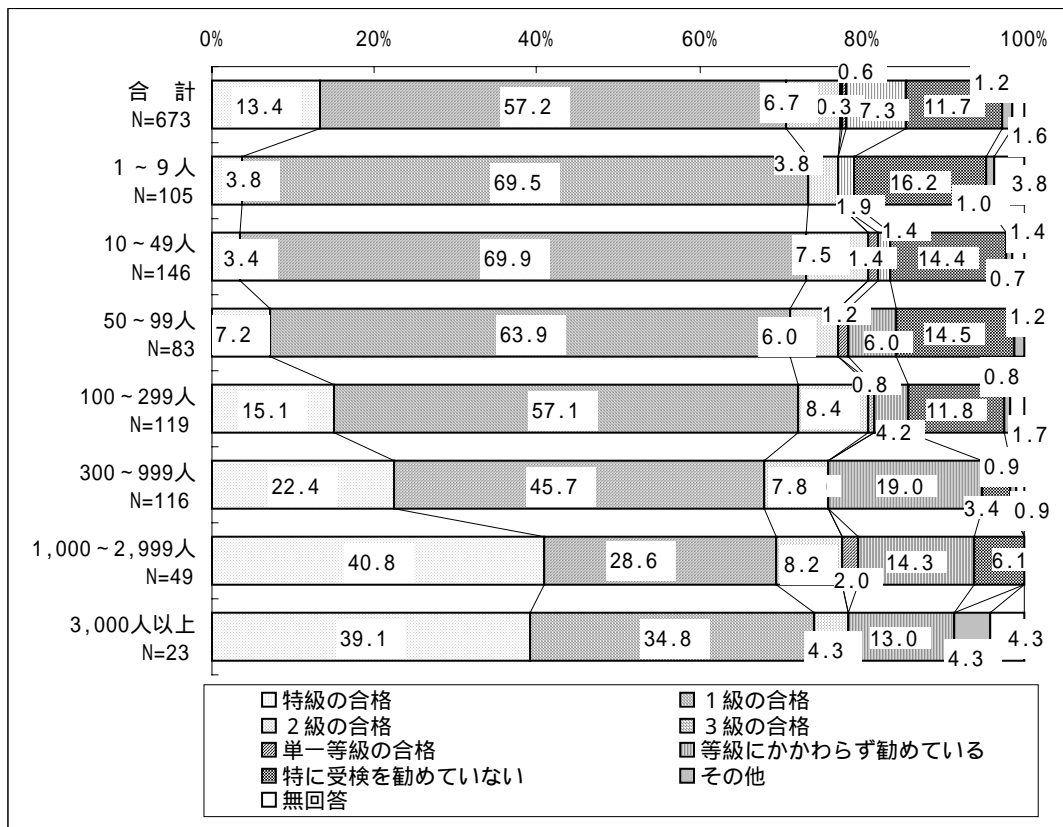
受検を勧めて(課して)いる職種 [複数回答]

順位	職種名	件数
1	機械加工	190
2	機械保全	179
3	機械検査	125
4	仕上げ	118
5	電子機器組立て	102
6	機械・プラント製図	89
7	放電加工	77
8	電気機器組立て	72
9	金属熱処理	70
10	金属プレス加工	63

で「従業員に技能検定の受検を勧めて(課して)いる」と回答した 594 事業所に尋ねた。受検を勧めて(課して)いる職種について上位 10 項目を左記に記載した。

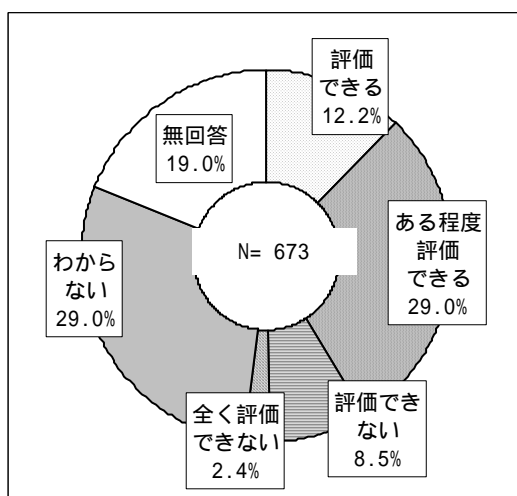
「機械加工」が 190 件で最も多く、次いで「機械保全」(179 件)、「機械検査」(125 件)となっている。

(2) 従業員に求める受検合格目標



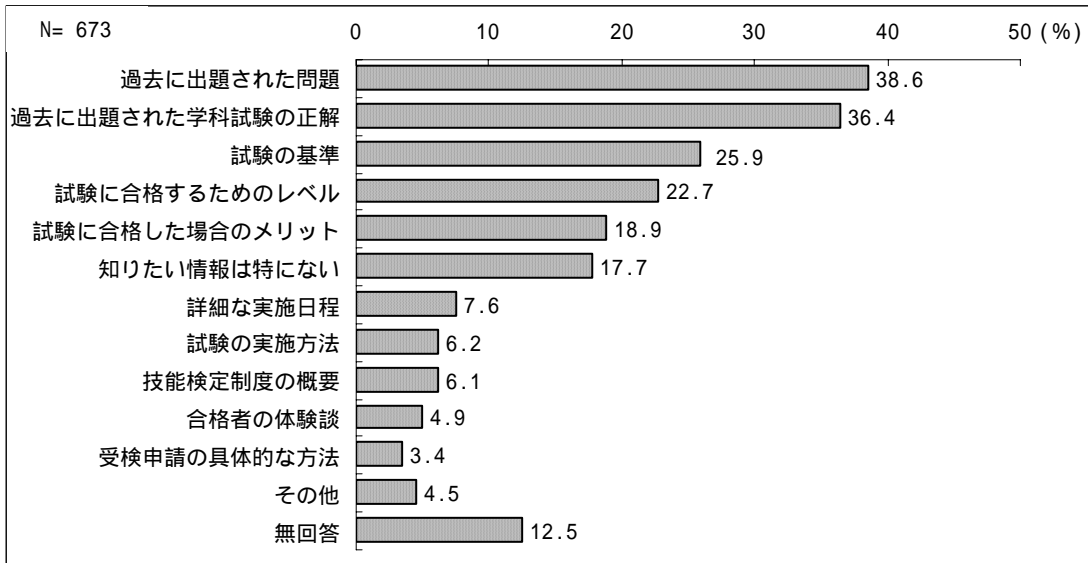
従業員に求める受検合格目標について見ると、「1級の合格まで勤めて(課している)」が57.2%で全体の6割近くを占めている。次いで、「特級の合格まで勤めて(課している)」、「特に受検を勤めて(課していない)」(11.7%)となっている。技能・技術系従業員規模別に見ると、1,000人以上では「特級の合格まで勤めて(課している)」割合が高く、1,000人未満では「1級以上の合格まで勤めて(課している)」割合が高くなっている。

(3) 3級技能検定の合格者が有する技能への評価



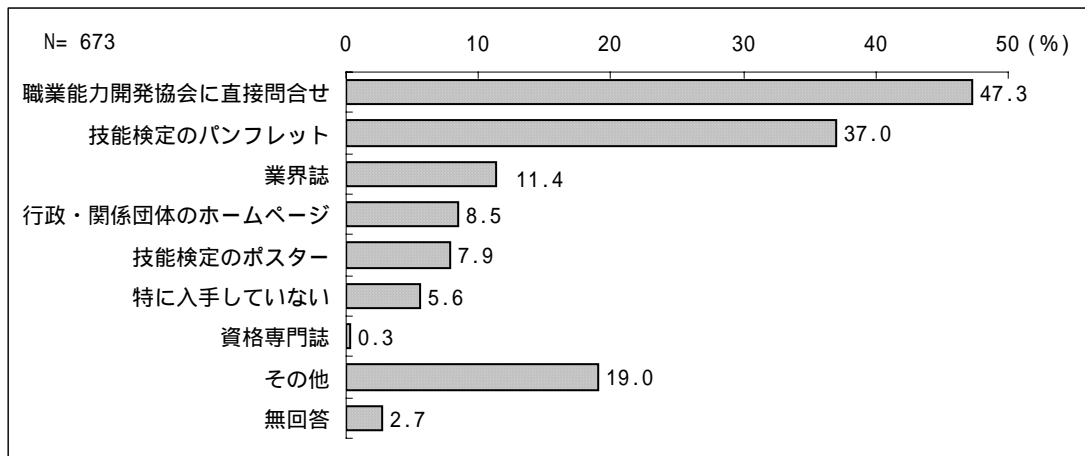
3級技能検定の合格者が有する技能に対する評価について見ると、「ある程度評価できる(ある程度役に立つ)」、「わからない」が29.0%で最も多くなっている。「ある程度評価できる(ある程度役に立つ)」と「評価できる」の両者を合わせた「評価できる」割合は41.2%で全体の4割を占めている。「評価できる」理由としては、「基本的な知識を持っている」という意見が多かった。

(4) 技能検定について知りたい情報 [複数回答]



技能検定関連の知りたい情報について見ると、「過去に出題された問題(実技・学科)」が 38.6%で最も多く、次いで「過去に出題された学科試験の正解」(36.4%)、「試験の基準(出題範囲)」(25.9%)となっている。

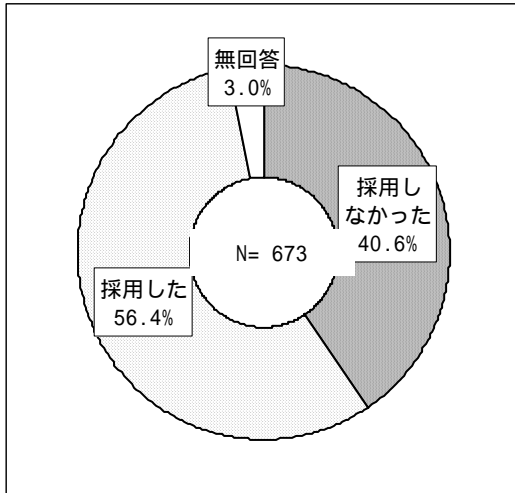
(5) 技能検定に関する情報の入手経路 [複数回答]



技能検定に関する情報の入手経路について見ると、「都道府県職業能力開発協会に直接問合せ」が 47.3%で最も多く、次いで「技能検定のパンフレットを見て」(37.0%)となっている。「その他」の割合が 19.0%と高く、内容としては「組合から」という意見が多かった。

(6) 平成16年度の技能・技術系従業員の採用状況

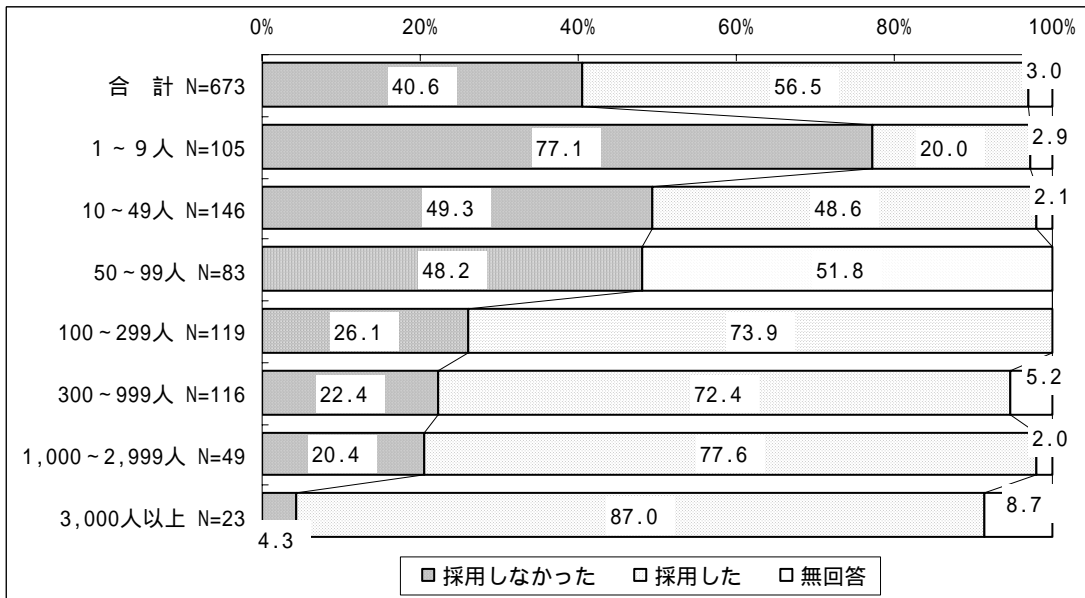
採用の有無



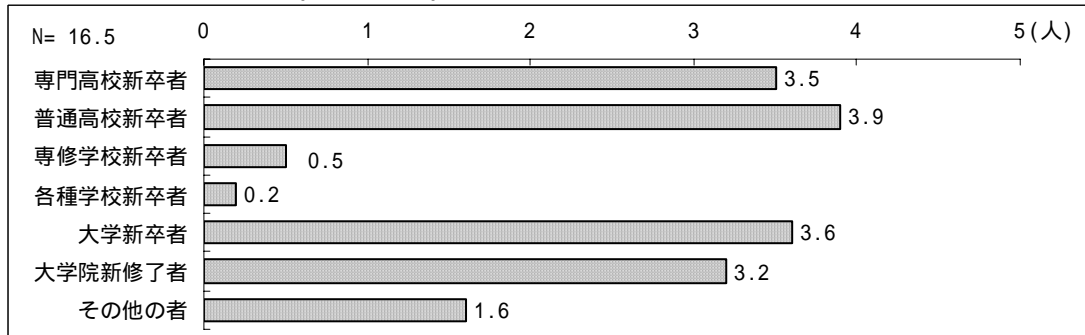
平成16年度の技能・技術系従業員の採用の有無について見ると、「採用した」が56.4%で全体の6割近くを占めている。

技能・技術系従業員規模別に採用の有無について見ると、1～49人では「採用した」割合よりも「採用しなかった」割合が高くなっている。「3,000人以上」では「採用した」割合が87.0%で全体の9割近くとなっている。

従業員規模別採用状況



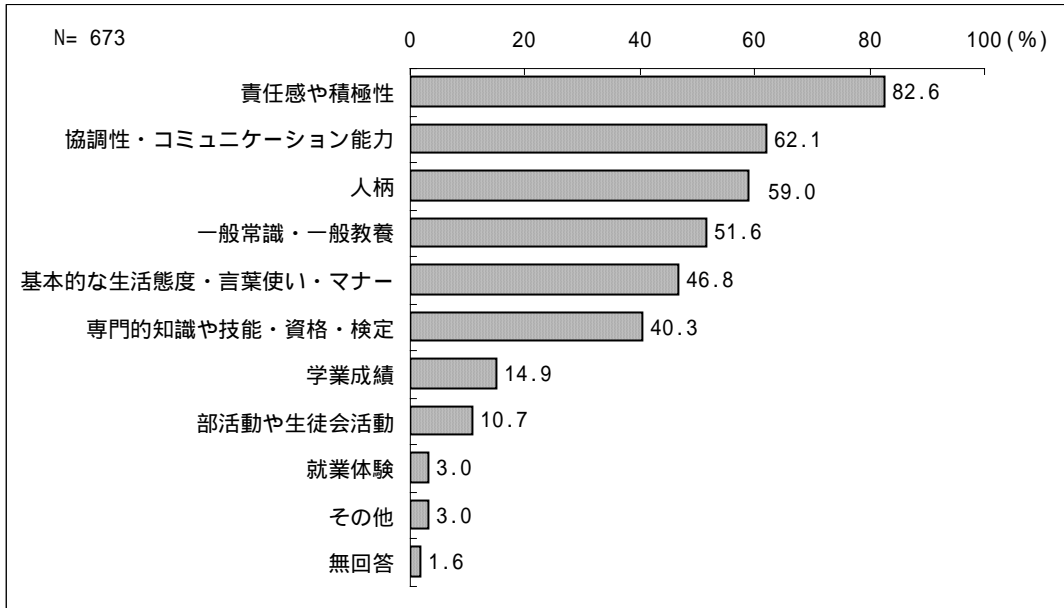
学校別の採用状況 (平均人数)



で「採用した」と回答した380事業所に尋ねた。平成16年度の採用人数の平均を見ると16.5人だった。

学校別に見ると、「普通高校新卒者」が3.9人で最も多く、以下「大学新卒者」(3.6人)、「専門高校新卒者」(3.5人)となっている。

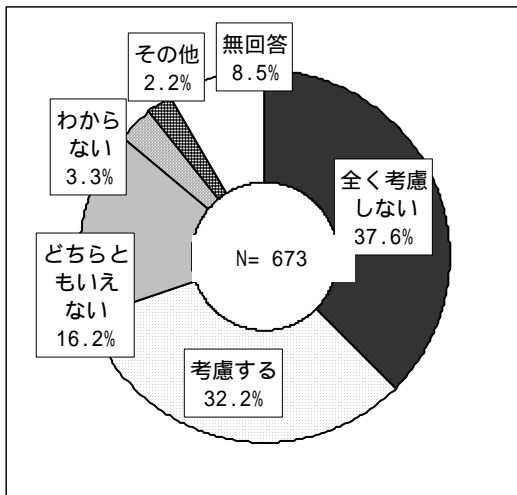
(7) 従業員の採用に当たって重視すること [複数回答]



従業員採用時に重視することについて見ると、「責任感や積極性」が 82.6%で最も多く、次いで「協調性・コミュニケーション能力」(62.1%)、「人柄」(59.0%)、「一般常識・一般教養」(51.6%)となっている。

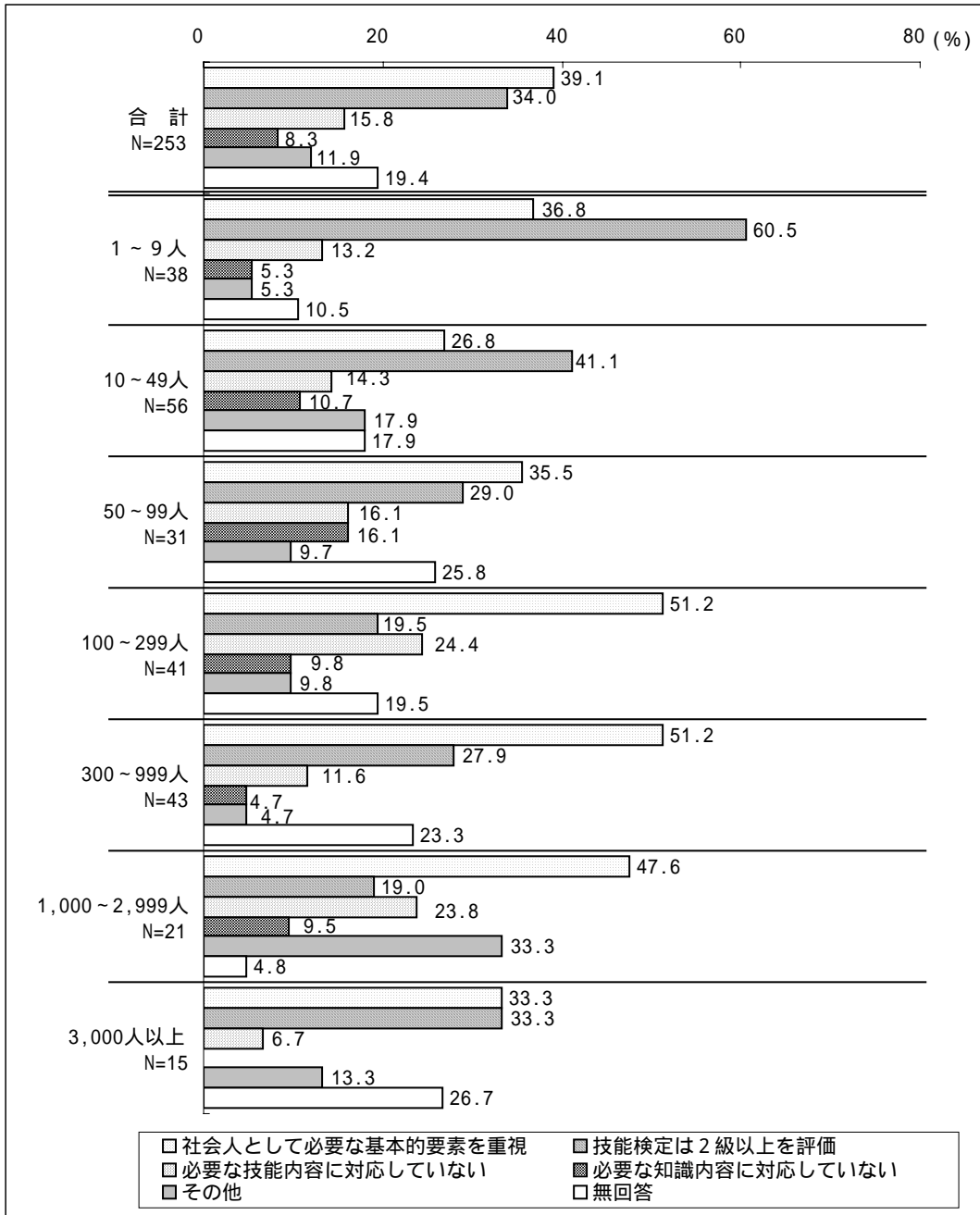
(8) 3級技能検定合格者に対して

採用への影響



3級技能検定の合格の有無が採用に影響するかについて見ると、「全く考慮しない」が 37.6%で最も多く、次いで「考慮する」(32.2%)となっている。

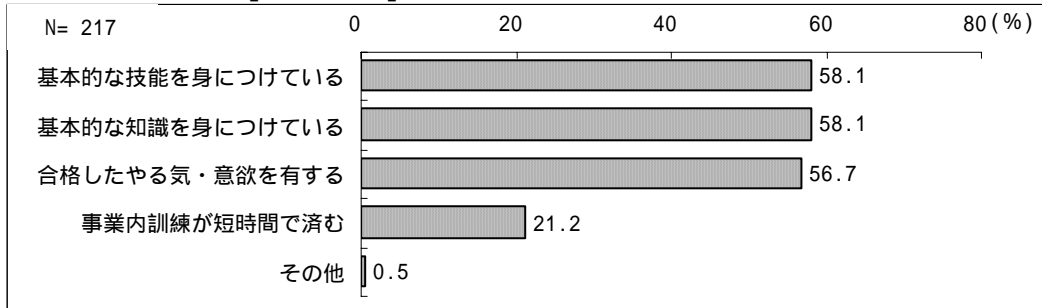
考慮しない理由 [複数回答]



で「全く考慮しない」と回答した 253 事業所に尋ねた。全く考慮しない理由について見ると、「技能検定の合否の有無より、社会人として必要な基本的要素(言葉づかい、マナー、協調性等)を重視しているため」が 39.1%で最も多く、次いで「技能検定は、2 級以上を評価しているため」(34.0%)となっている。

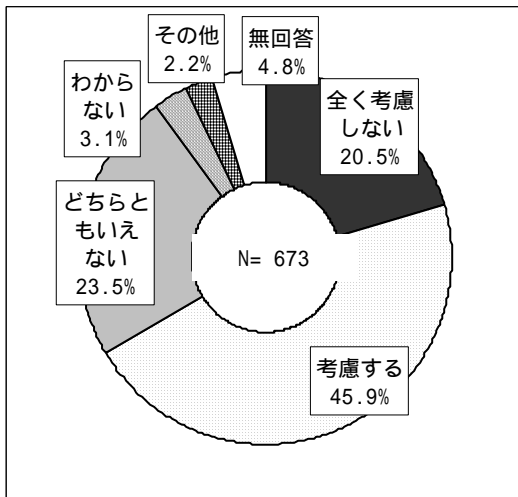
技能・技術系従業員規模別に見ると、従業員 50 人未満では「技能検定は、2 級以上を評価しているため」が最も多く、従業員 50 人以上では「技能検定の合否の有無より、社会人として必要な基本的要素(言葉づかい、マナー、協調性等)を重視しているため」が多くなっている。

考慮する理由 [複数回答]



で「考慮する」と回答した 217 事業所に尋ねた。考慮する理由について見ると、「基本的な技能を既に身につけているため」(58.1%)、「基本的な知識を既に身につけているため」(58.1%)、「技能検定を受検して合格したというやる気・意欲を有するため」(56.7%)が多くなっている。技能・技術系従業員規模別では、どの項目も大差はなかった。

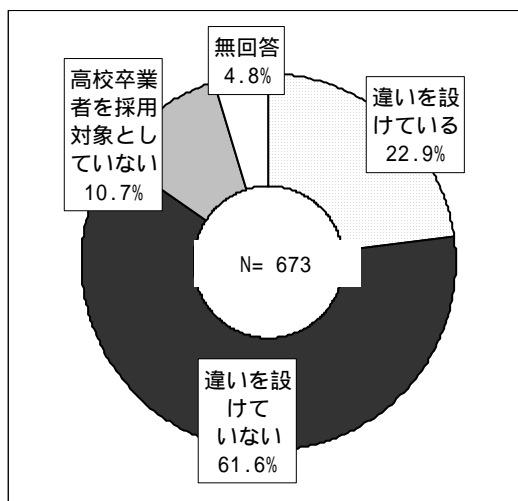
(9) 2級技能検定合格者に対して



2級技能検定の合格の有無が採用に影響するかについて見ると、「考慮する」が 45.9%で最も多く、次いで「どちらともいえない」(23.5%)となっている。「考慮する」理由には、「即戦力になる」、「基礎ができている」という意見が多かった。

3級技能検定合格と2級技能検定合格を比較すると、3級では「全く考慮しない」が多く、2級では「考慮する」が多くなっている。

(10) 専門高校卒業生と普通高校卒業生の採用基準



採用の基準において、専門高校卒業生と普通高校卒業生の違いについて見ると、「違いを設けていない」が 61.6%、「違いを設けている」が 22.9%となっている。

(11) 技能検定以外で評価する資格 [複数回答]

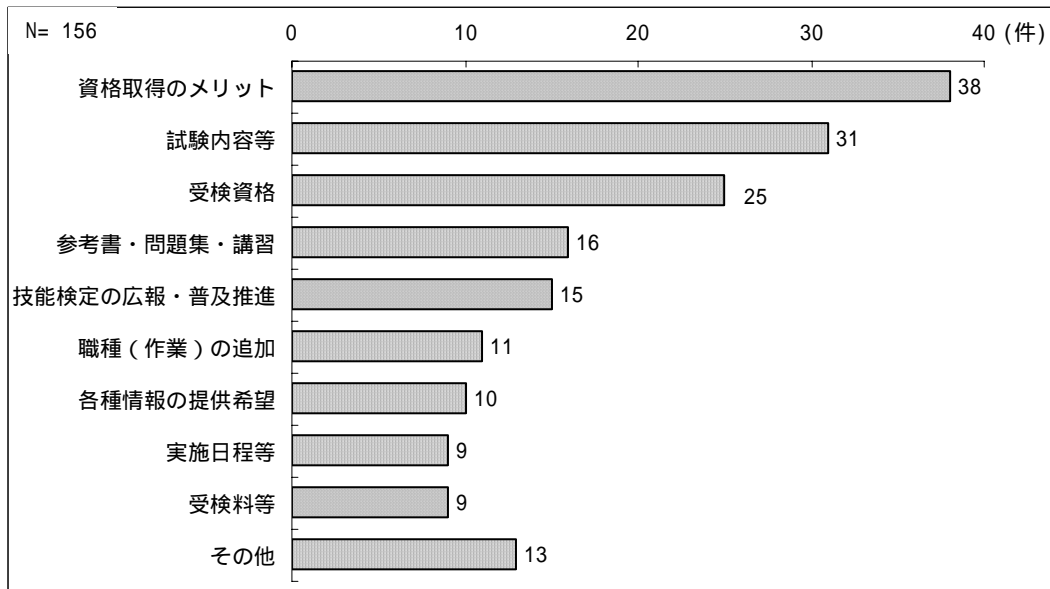
順位	資格名	件数
1	玉掛け関連	36
2	クレーン関連	30
3	フォークリフト関連	28
4	危険物関連	27
4	建築士関連	27
6	電気工事士関連	21
7	TOEIC関連	16
8	土木施工管理技士関連	14
9	管工事施工管理技士関連	13
9	ガス溶接関連	13

従業員の採用時に技能検定以外で評価する資格を記述式で尋ねた。673 事業所中 210 事業所から回答を得ることができた。

記述された資格名を関連性のある名称でまとめ、上位 10 項目を左記に記載した。

技能検定以外で評価される資格は、「玉掛け関連」が 36 件で最も多く、次いで「クレーン関連」(30 件)、「フォークリフト関連」(28 件)、となっている。

(12) 技能検定に対する意見・要望 [複数回答]



技能検定に対する意見・要望について記述式で尋ねた。673 事業所中 156 事業所から回答を得ることができた。

一番多い意見・要望は「資格取得のメリットについて」(38 件)で、次いで「試験内容等について」(31 件)、「受検資格について」(25 件)となっている。

意見・要望が多かった上位 3 項目に含まれる記述内容を以下にまとめた。

< 資格取得のメリットについて >

- ・ 社会的評価が低い、高まって欲しい
- ・ 資格を保持していても優遇されない
- ・ 資格保持者とそうでない人の格差がない

< 試験内容について >

- ・ 時代のニーズに合った試験内容にして欲しい
- ・ 実務に近い試験内容にして欲しい

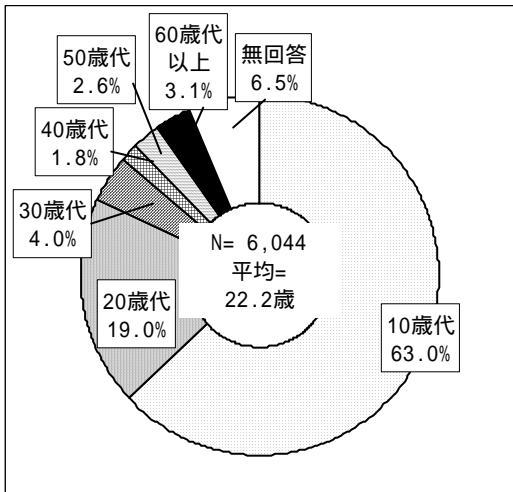
< 受検資格について >

- ・ 受検資格の緩和は技能者のためにならない
- ・ 資格年齢が下がりすぎ
- ・ 受検緩和をして1級の価値を下げないで欲しい
- ・ 受検資格の緩和を願う、受検資格を撤廃して欲しい

3 3級受検者関係アンケート結果

1. 調査回答者の属性

(1) 年齢別

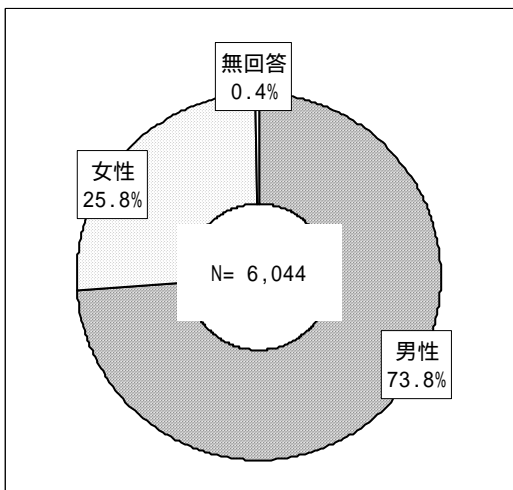


年齢別に見ると、「10歳代」が63.0%で最も多く、次いで「20歳代」(19.0%)となっている。平均年齢は22.2歳となっている。

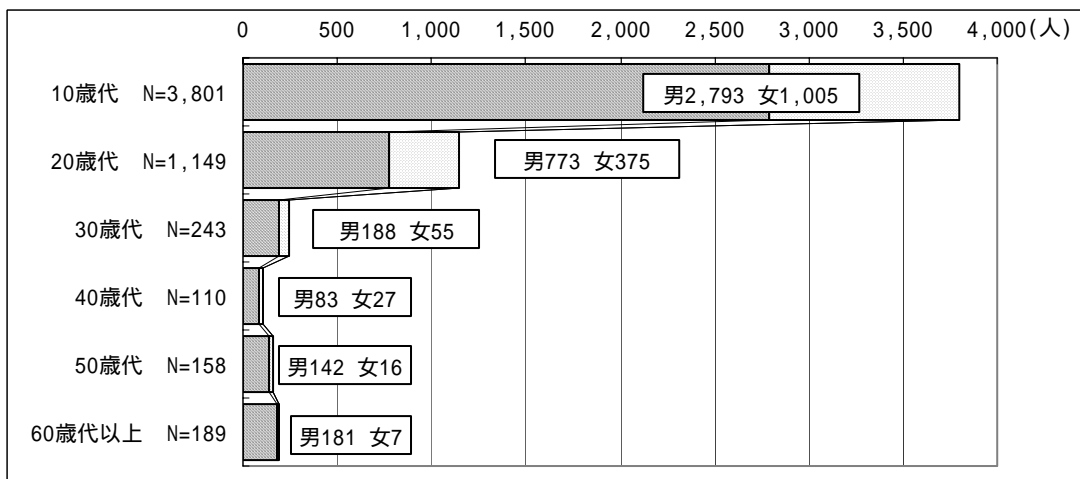
性別に見ると、「男性」が73.8%で全体の7割弱を占めている。

年齢別に性別を見ると、全体的にどの年齢層でも「男性」の人数が「女性」より多い。「20歳代」では、他の年齢層に比べ全体に対する「女性」の割合が高くなっている。

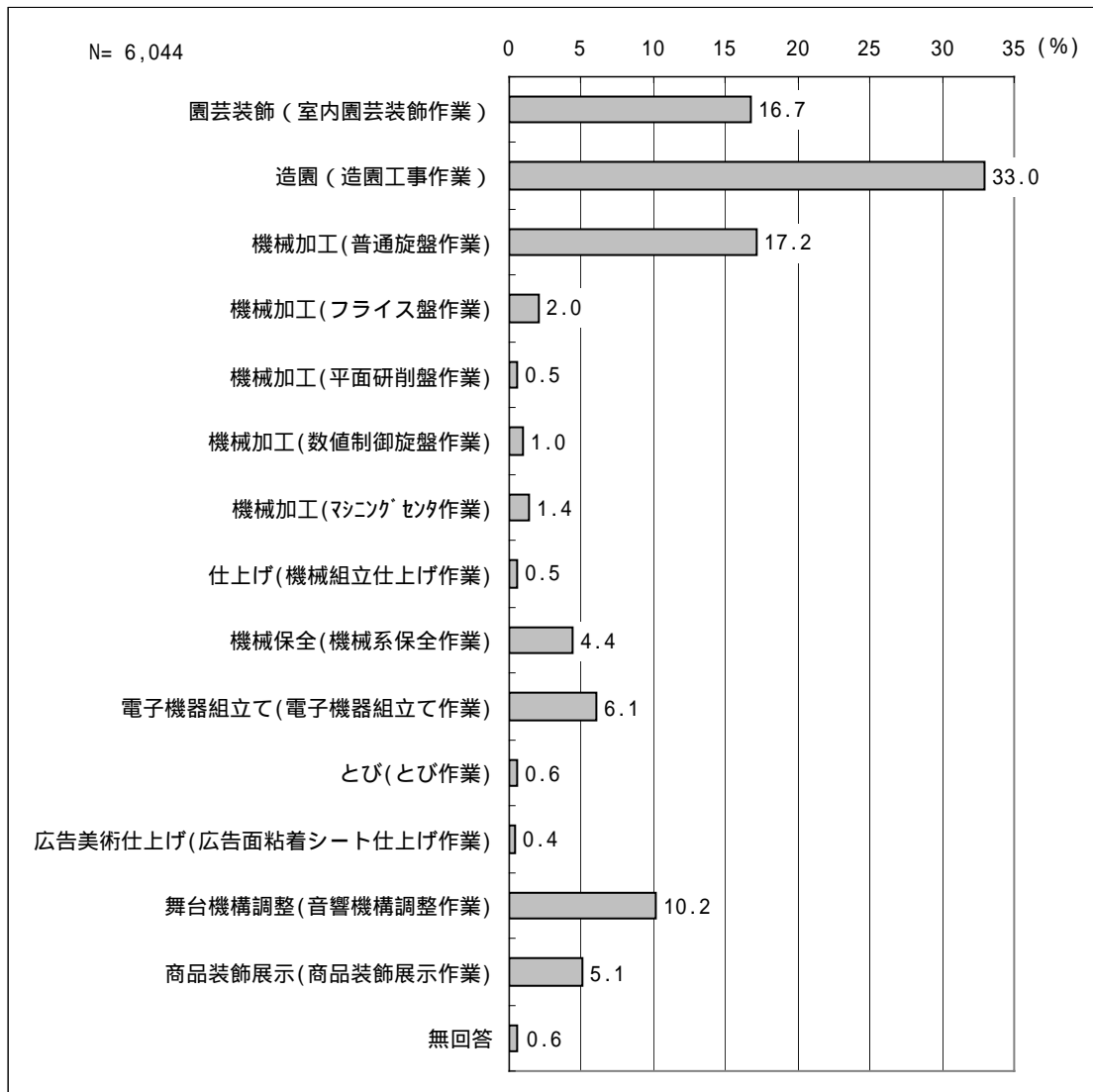
(2) 性別



(3) 年齢別性別



* 無回答はグラフから削除



(4) 受検した職種 (作業)

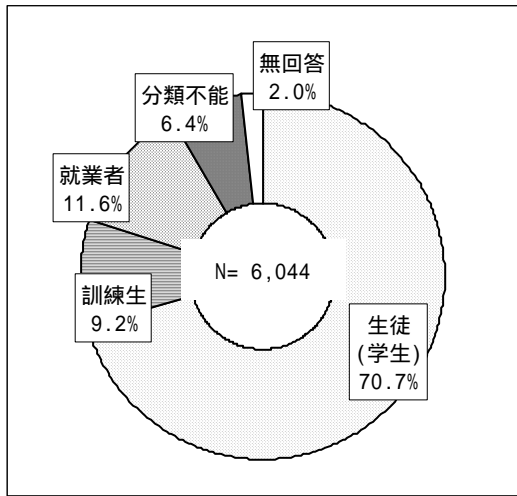
* 回答者数の少ない「めっき (電気めっき作業)」（N=6）、「内装仕上げ施工 (プラスチック系床仕上げ工事作業)」（N=3）、「内装仕上げ施工 (カーペット系床仕上げ工事作業)」（N=2）、「内装仕上げ施工 (ボード仕上げ工事)」（N=1)についてはグラフから削除 (以下同様)

受検した職種について見ると、「造園 (造園工事作業)」が 33.0%で最も多く、次いで「機械加工 (普通旋盤作業)」（17.2%）、「園芸装飾 (室内園芸装飾作業)」（16.7%）となっている。

受検者区分別に見ると、どの区分でも「造園 (造園工事作業)」の割合が高くなっているが、「就業者」は「機械保全 (機械系保全作業)」が 24.7%で他の受検者区分より高い割合となっている。

性別に見ると、「男性」では「造園 (造園工事作業)」(37.9%)、「機械加工 (普通旋盤作業)」(22.7%)が多く、「女性」は「園芸装飾 (室内園芸装飾作業)」(39.7%)、「造園 (造園工事作業)」(19.1%)、「商品装飾展示 (商品装飾展示作業)」(17.7%)、「舞台機構調整 (音響機構調整作業)」(15.9%)が多くなっている。

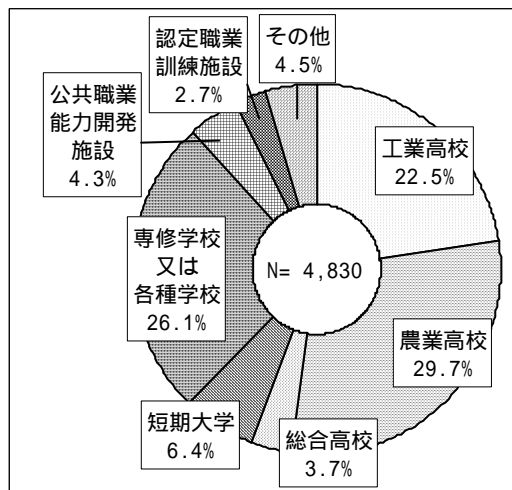
(5) 受検者区分



受検者の区分について見ると、「生徒(学生)」が70.7%で最も多く、「生徒(学生)」、「訓練生」を合わせた学校に通っている割合は79.9%で全体の約8割を占めている。

(6) 通っている学校について

通っている学校・訓練施設について



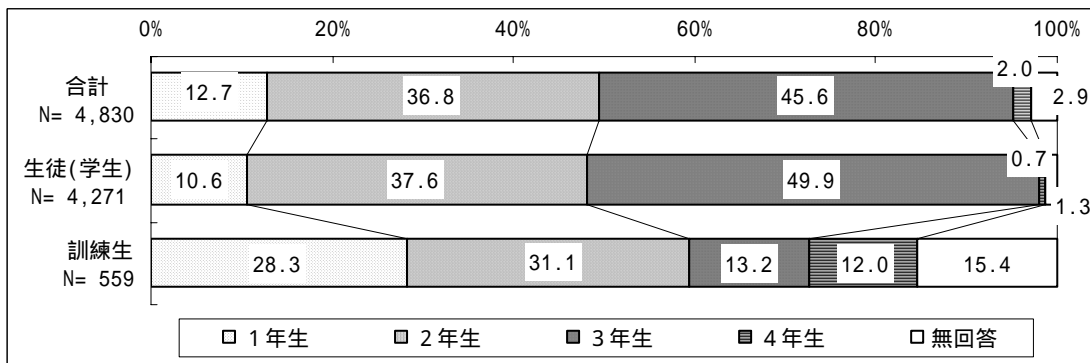
(5)で「生徒(学生)」(70.7%)、「訓練生」(9.2%)と回答した4,830人に尋ねた。

通っている学校・訓練施設について見ると、「農業高校」が29.7%で最も多く、次いで「専修学校又は各種学校」(26.1%)となっている。

学年について見ると、全体では「3年生」が45.6%で最も多く、次いで「2年生」(36.8%)となっている。

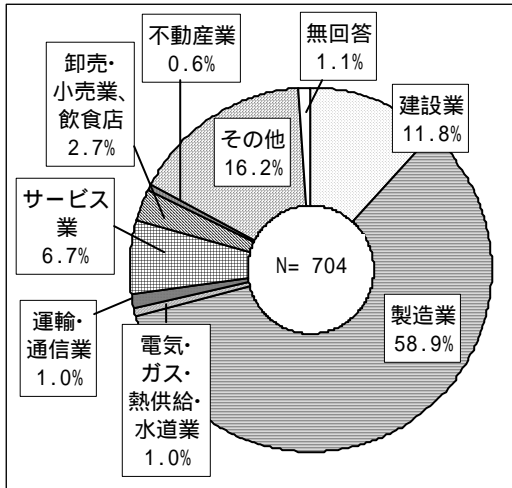
「生徒(学生)」と「訓練生」を比較すると、「訓練生」の方が受検する学年が低くなっている。

学年



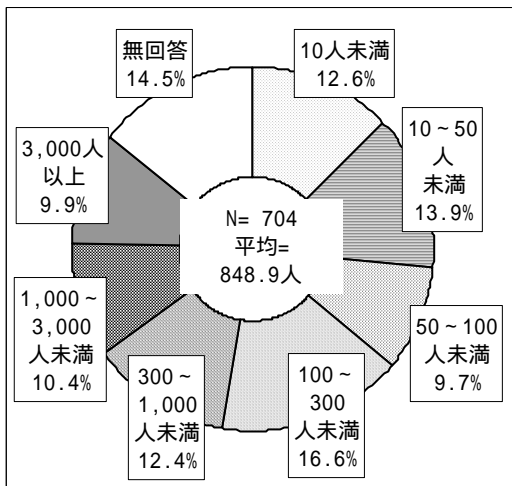
(7) 勤務している事業所、経験年数について

業種



(5)で「就業者」と回答した 704 人に尋ねた。就業者の業種について見ると、「製造業」が 58.9%で全体の約 6 割を占めている。

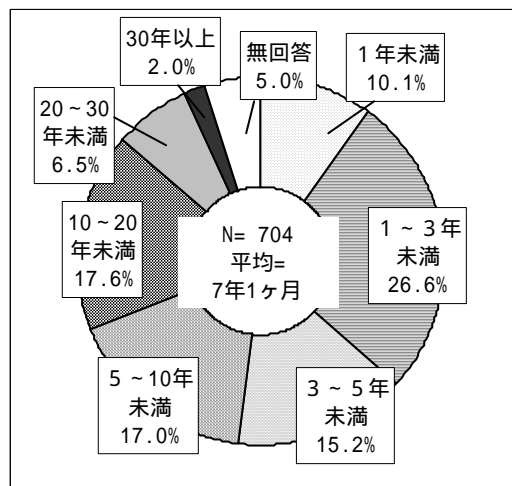
従業者数



就業者の勤務先の従業者数について見ると、「100~300人未満」が 16.6%で最も多く、次いで「10~50人未満」(13.9%)、「10人未満」(12.6%)となっている。平均従業者数は 848.9人となっている。

性別に見ると、「男性」の勤務先の平均従業者数は 920.8人であるのに対し、「女性」の勤務先の平均従業者数は 406.0人と低くなっている。

経験年数

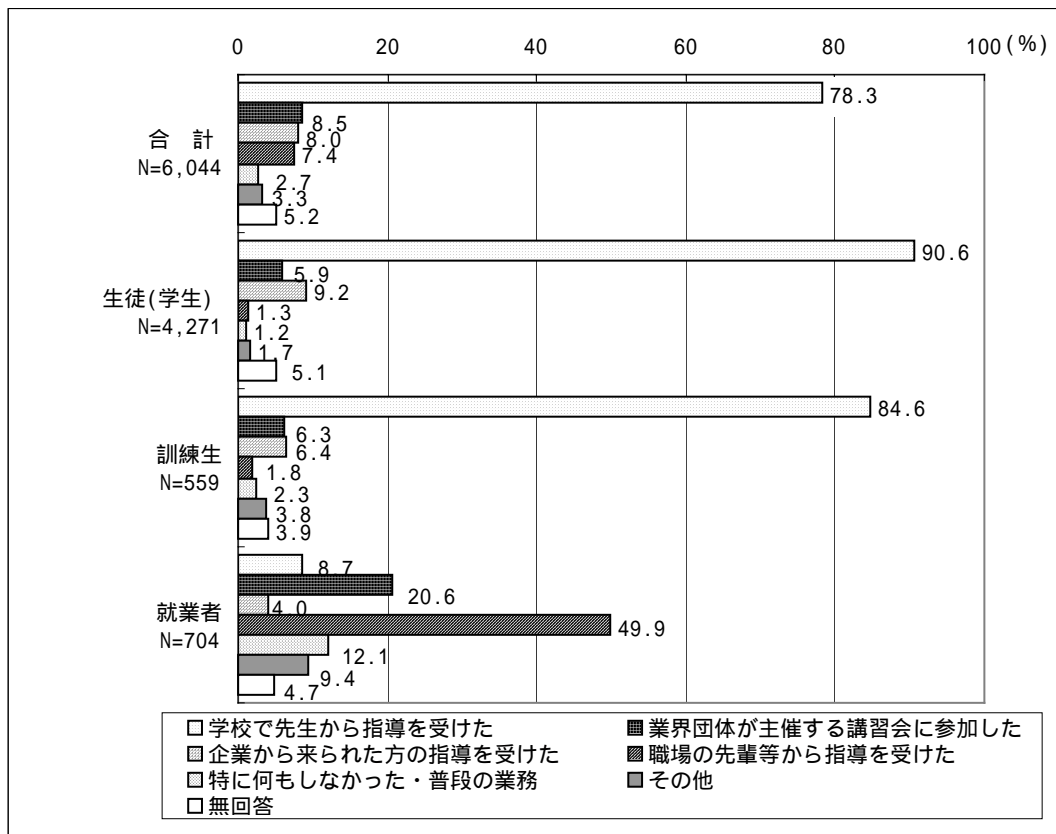


就業者の現在の仕事の経験年数について見ると、「1~3年未満」が 26.6%で最も多く、次いで「10~20年未満」(17.6%)、「5~10年未満」(17.0%)となっている。平均経験年数は 7年1ヶ月となっている。

2.技能検定について

< 実技試験 >

(1) 実技試験の受検に向けて、講じた対策 [複数回答]

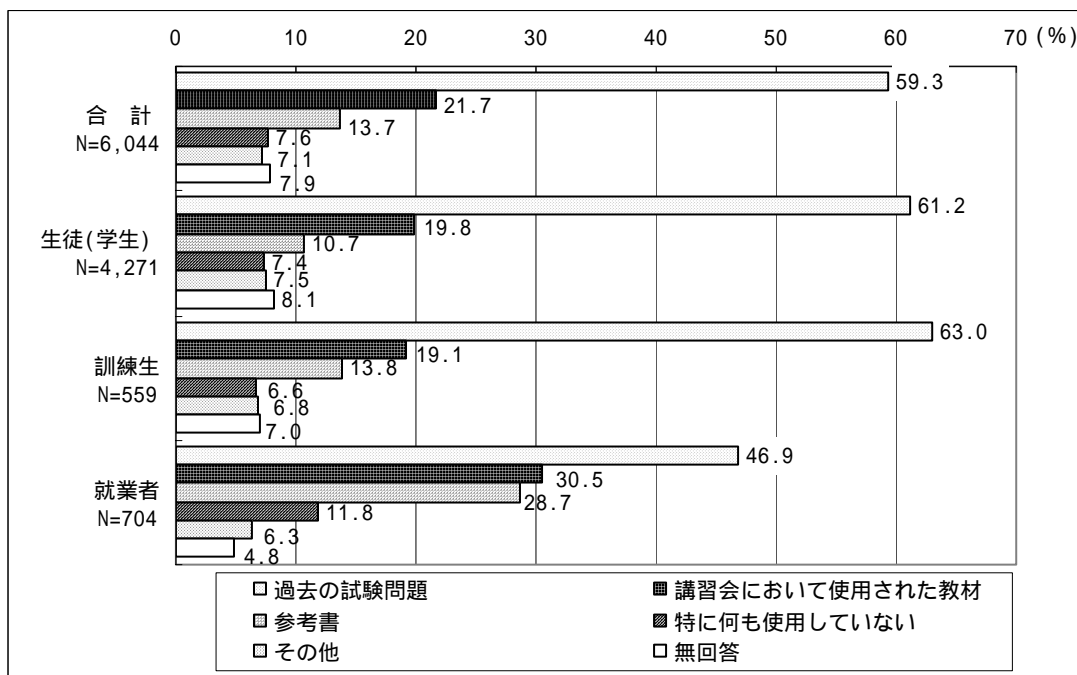


* 受験者区分の分類不能についてはグラフから削除 (以下同様)

実技試験に向けて講じた対策について見ると、「学校で先生から指導を受けた」割合が78.3%で全体の8割近くを占めている。

受験者区分別に見ると、「生徒(学生)」、「訓練生」は「学校で先生から指導を受けた」割合が8割以上を占めており、「就業者」は「職場の先輩等から指導を受けた」割合が49.9%と半数近くを占めている。

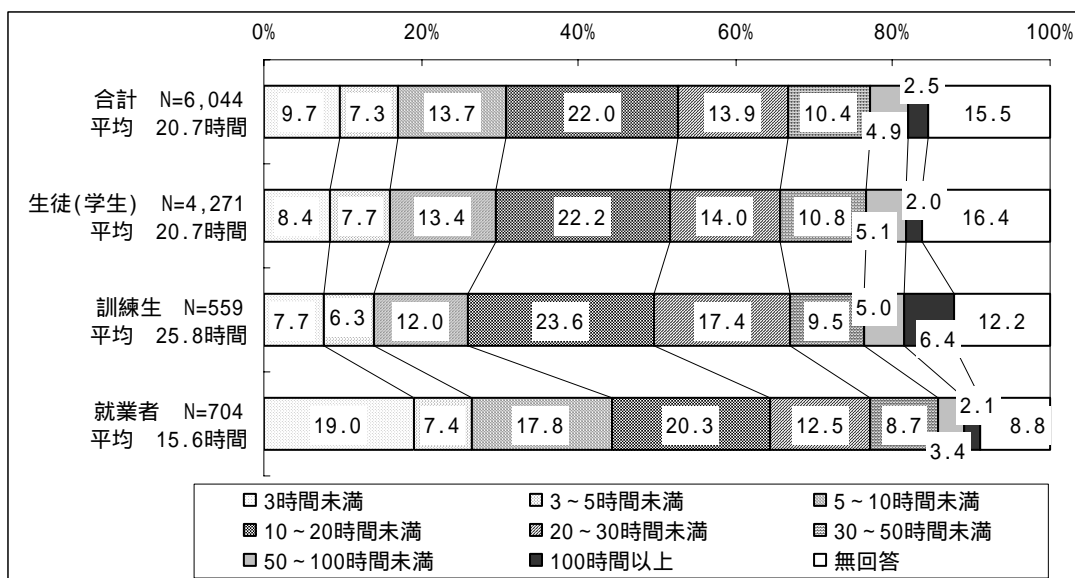
(2) 実技試験の受検に向けて、訓練・練習の際に使用したもの [複数回答]



実技試験に向けて訓練、練習の際に使用したものについて見ると、「過去の試験問題」が59.3%で最も多くなっている。

受検者区分別に見ると、「就業者」では他の受検者区分より「講習会において使用された教材」(30.5%)、「参考書」(28.7%)の割合が高くなっている。

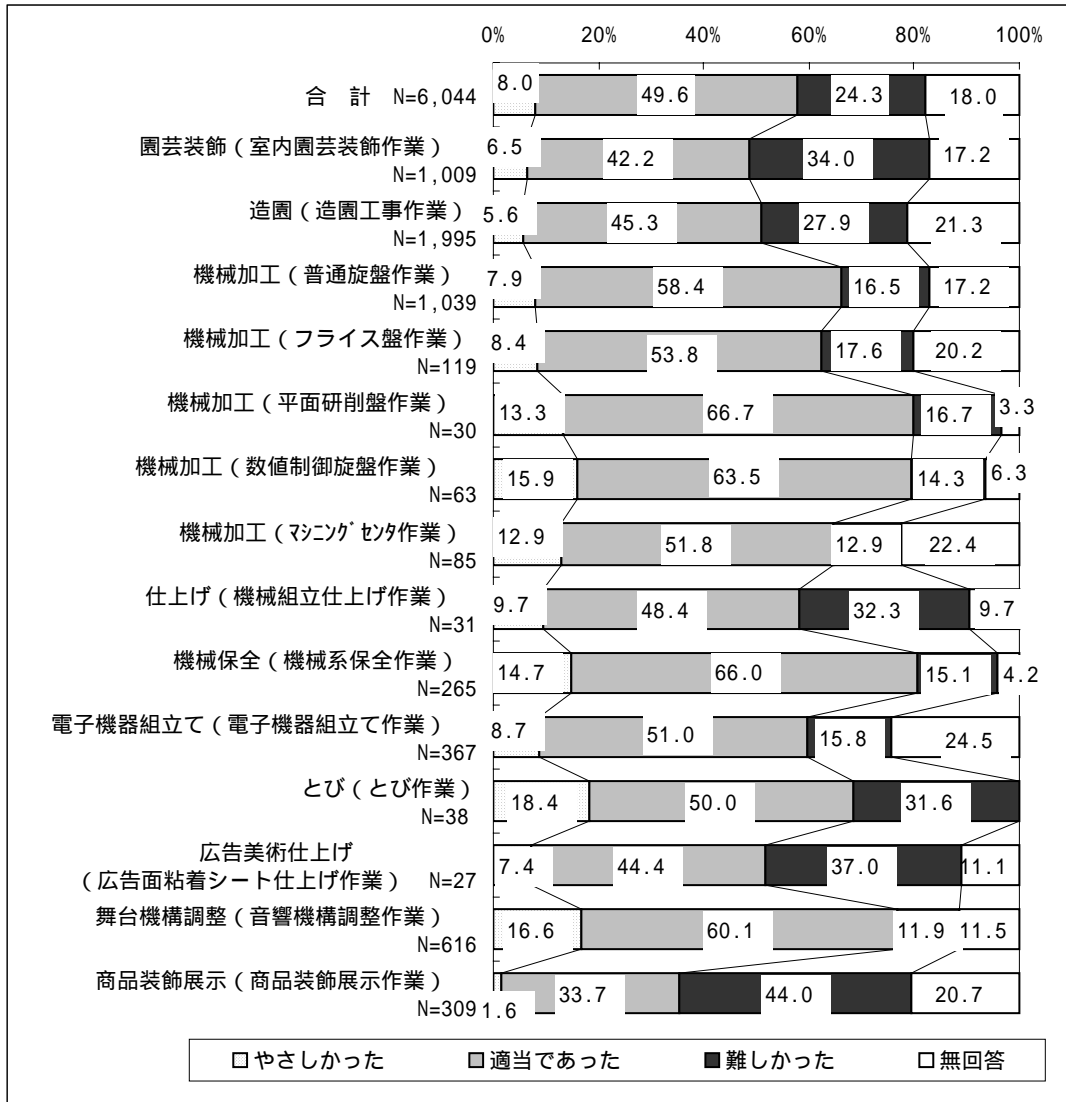
(3) 実技試験の受検に向けて、準備に費やした時間



実技試験に向けて準備に費やした時間について見ると、「10~20 時間未満」が22.0%で最も多く、次いで「20~30 時間未満」(13.9%)、「5~10 時間未満」(13.7%)で、平均準備時間は20.7 時間となっている。

受検者区分別に見ると、「生徒(学生)」、「訓練生」では10 時間以上の割合が半数以上を占めているが、「就業者」は10 時間未満の割合が44.2%と半数近くを占めている。

(4) 実技試験を受検した感想

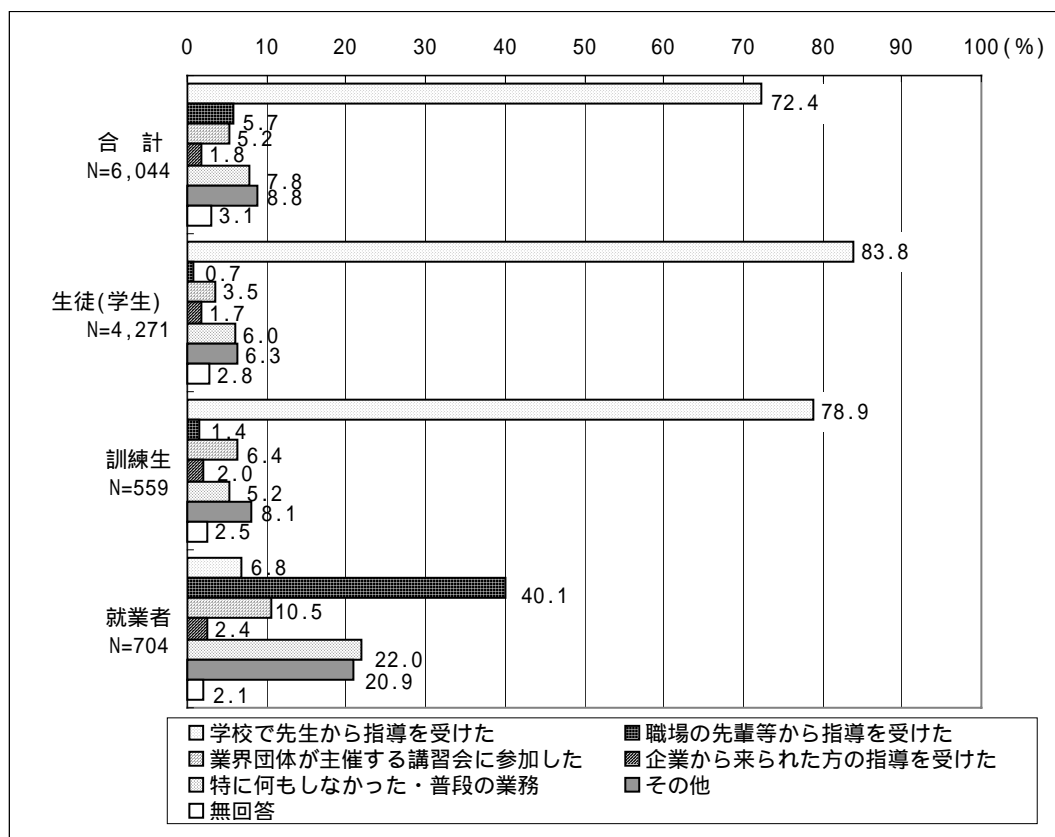


受検した感想について見ると、「適当であった」割合が 49.6%で最も高く、全体の半数近くを占めている。

受検した職種別に見ると、「やさしかった」割合が高い職種(作業)は、「とび(とび作業)」「(18.4%)」、「舞台機構調整(音響機構調整作業)」「(16.6%)」、「機械加工(数値制御旋盤作業)」「(15.9%)」となっており、反対に「難しかった」割合が高い職種(作業)は、「商品装飾展示(商品装飾展示作業)」「(44.0%)」、「広告美術仕上げ(広告面粘着シート仕上げ作業)」「(37.0%)」、「園芸装飾(室内園芸装飾作業)」「(34.0%)」となっている。

< 学科試験 >

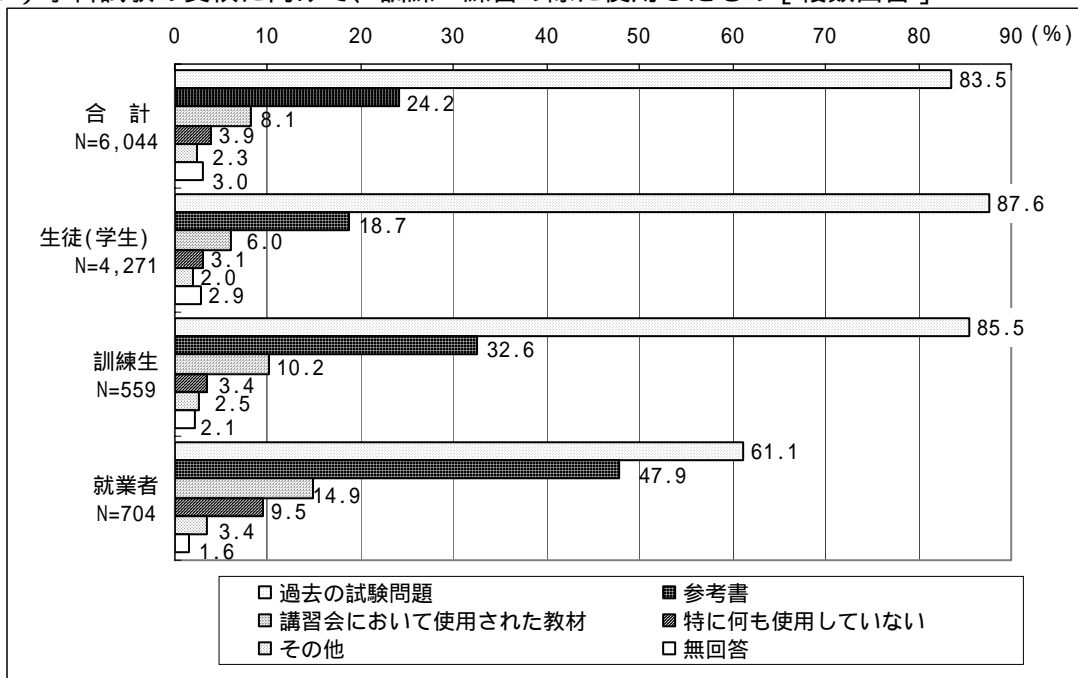
(5) 学科試験の受検に向けて、講じた対策 [複数回答]



学科試験に向けて講じた対策について見ると、「学校で先生から指導を受けた」が72.4%で全体の7割を占めている。

受検者区分別に見ると、「生徒(学生)」、「訓練生」は「学校で先生から指導を受けた」割合が8割前後となっている。「就業者」は「職場の先輩等から指導を受けた」が40.1%で最も高く、以下「特に何もしなかった・普段の業務」(22.0%)、「その他」(20.9%)となっている。「その他」には「過去問」、「参考書」、「通信教育」等、独学で学んだという意見が多かった。

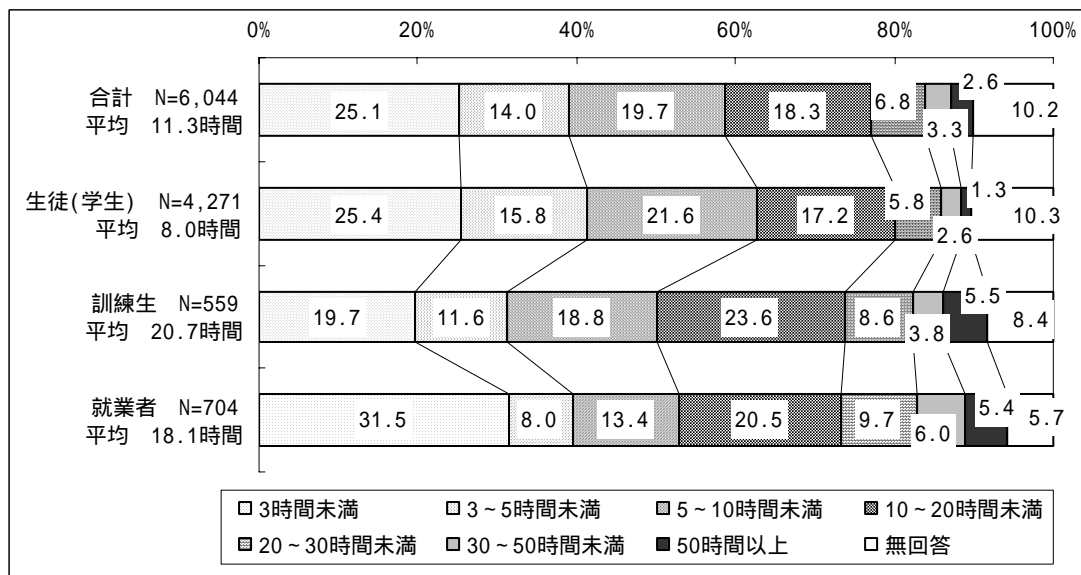
(6) 学科試験の受験に向けて、訓練・練習の際に使用したもの [複数回答]



学科試験に向けて訓練・練習の際に使用したものについて見ると、「過去の試験問題」が83.5%で最も多くなっている。

受験者区分別に見ると、「就業者」は他の受験者区分に比べ、「過去の試験問題」(61.1%)の割合が低く、「参考書」(47.9%)の割合が高くなっている。

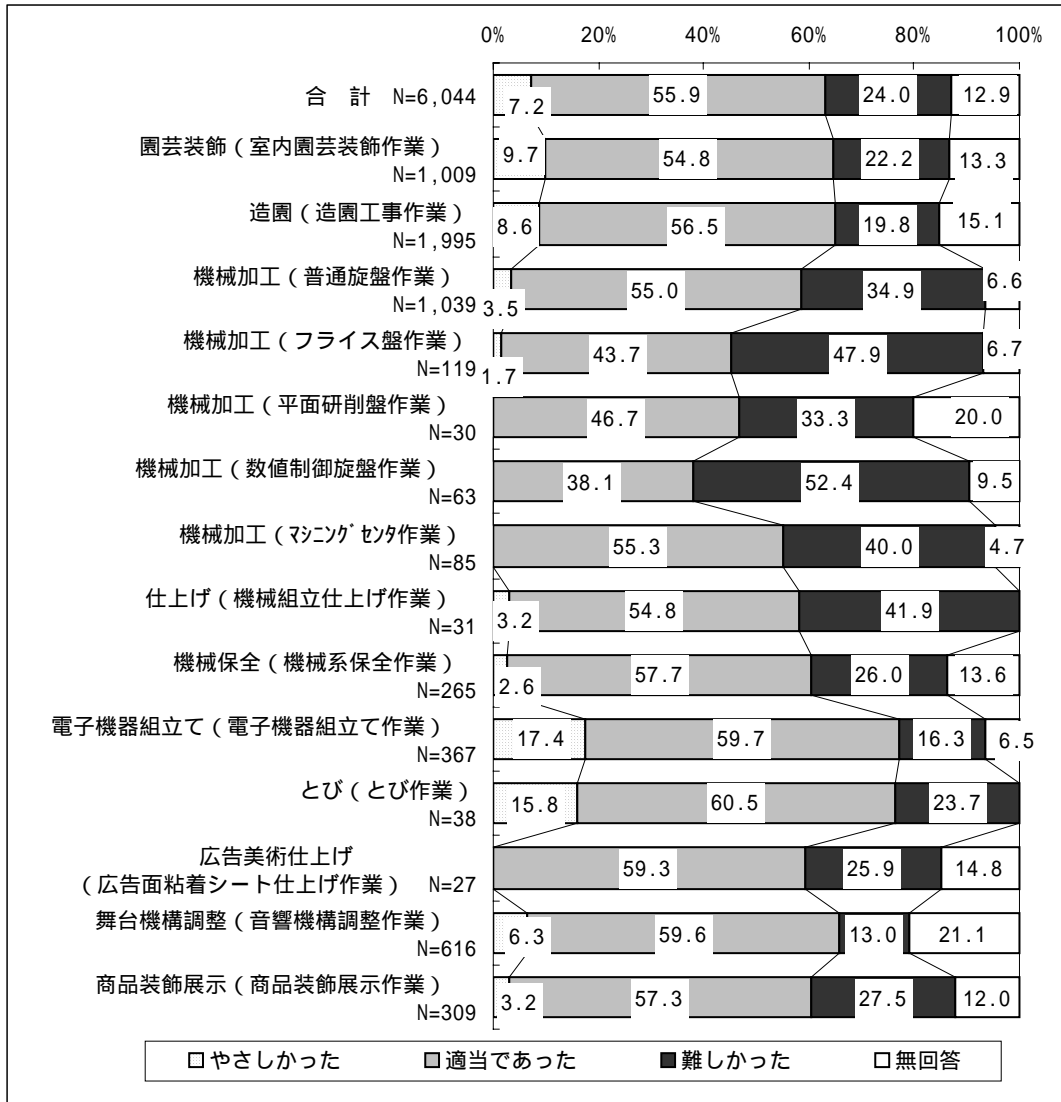
(7) 学科試験の受験に向けて、準備に費やした時間



学科試験に向けて準備に費やした時間について見ると、「3時間未満」が25.1%で最も多く、次いで「5~10時間未満」(19.7%)となっている。

受験者区分別に見ると、「生徒(学生)」、「就業者」では5時間未満の割合が約4割となっているが、「訓練生」は5時間以上の割合が60.3%で全体の6割となっている。

(8) 学科試験を受検した感想



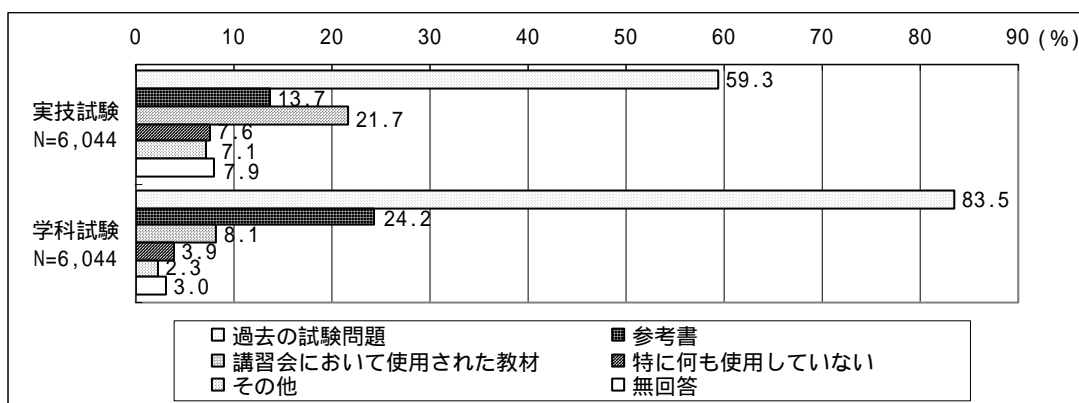
受検した感想について見ると、「適当であった」割合が 55.9%で最も高く、全体の 6 割近くを占めている。

受検した職種別に見ると、「やさしかった」割合が高い職種(作業)は、「電子機器組立て(電子機器組立て作業)」(17.4%)、「とび(とび作業)」(15.8%)となっており、反対に「難しかった」割合が高い職種(作業)は、「機械加工(数値制御旋盤作業)」(52.4%)、「機械加工(フライス盤作業)」(47.9%)、「仕上げ(機械組立仕上げ作業)」(41.9%)、「機械加工(マシニングセンタ作業)」(40.0%)となっている。

< 実技試験と学科試験の比較 >

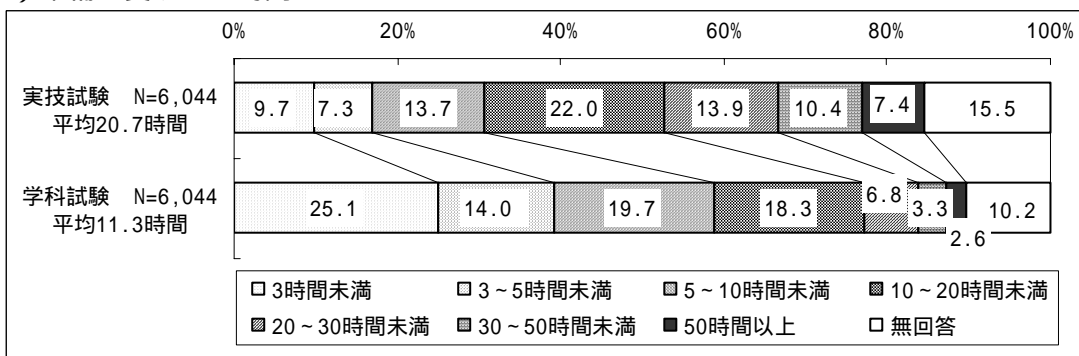
(9) 実技試験、学科試験を以下3項目について比較した。

訓練・練習の際に使用したもの [複数回答]



訓練・練習の際に使用したものについて見ると、「実技試験」は「過去の試験問題」(59.3%)、「講習会において使用された教材」(21.7%)が多く、「学科試験」は「過去の試験問題」(83.5%)、「参考書」(24.2%)が多くなっている。

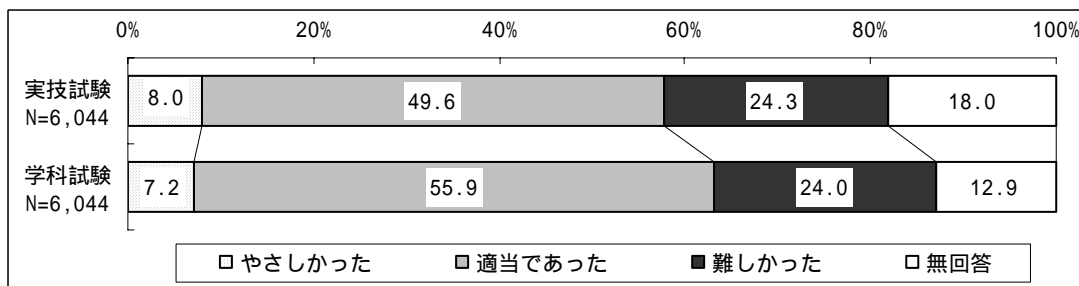
(10) 準備に費やした時間



準備に費やした時間について見ると、「実技試験」は「10~20 時間未満」が 22.0%で最も多く、「学科試験」は「3 時間未満」が 25.1%となっている。

平均準備時間で比較すると、「学科試験」(平均準備時間 11.3 時間)より「実技試験」(平均準備時間 20.7 時間)の方が 9.4 時間長い。

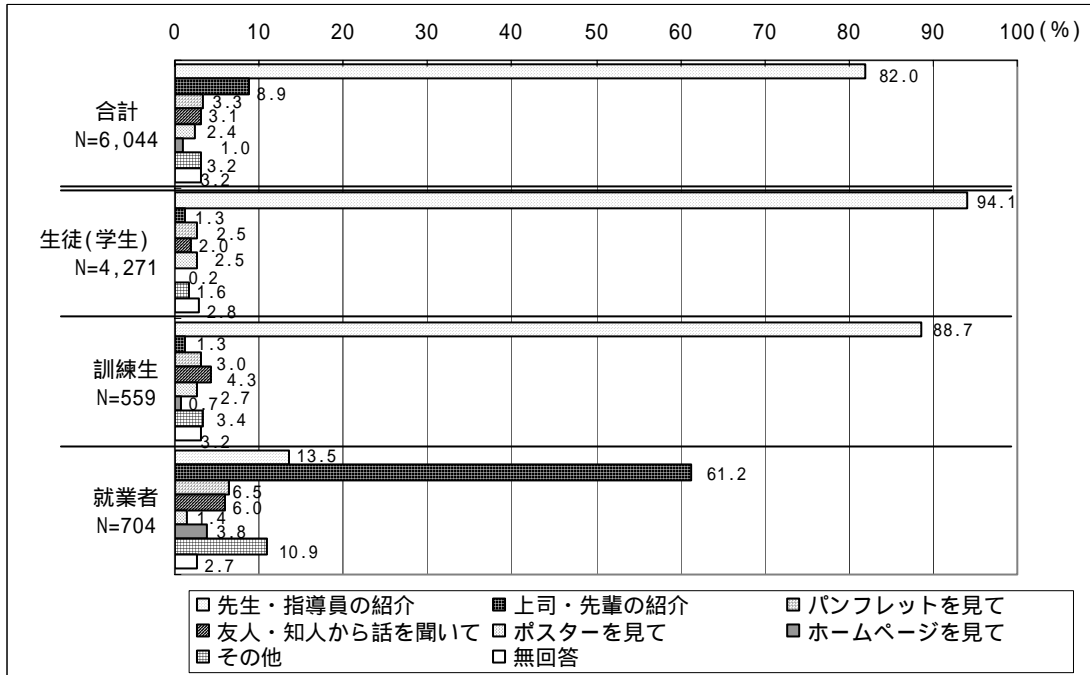
(11) 受験した感想



受験した感想について見ると、「実技試験」、「学科試験」共に「適当であった」割合が高くなっている。

< 技能検定制度全体・共通 >

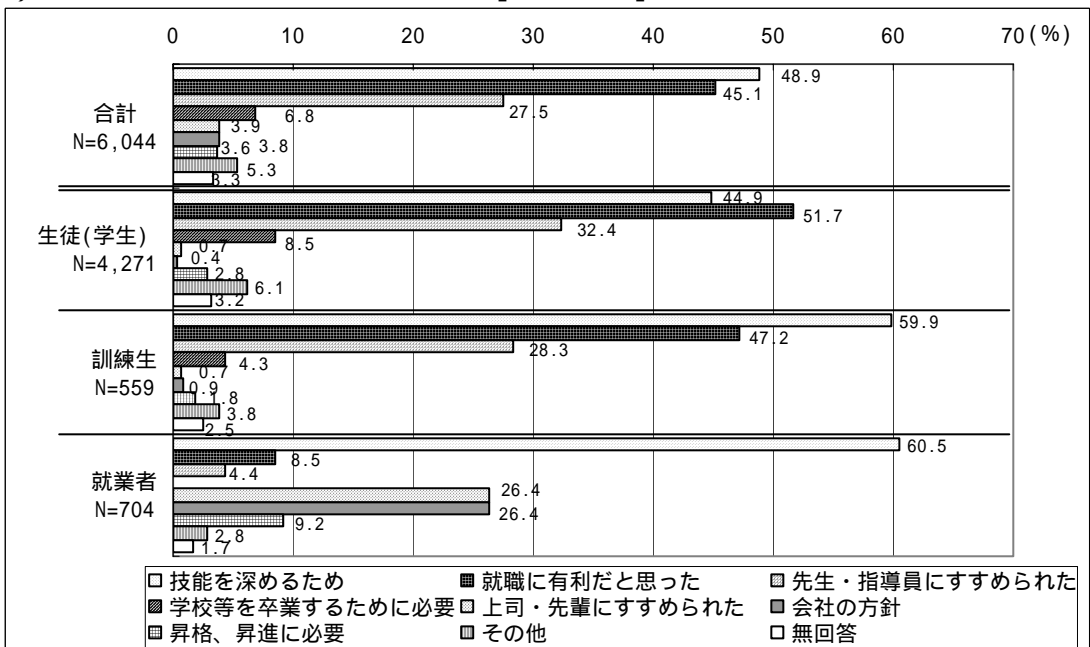
(12) 技能検定制度を知った方法 [複数回答]



技能検定制度を知った方法について見ると、「先生・指導員の紹介」が 82.0%で全体の 8 割を占めている。

受検者区分別に見ると、「生徒（学生）」、「訓練生」は「先生・指導員の紹介」、「就業者」は「上司・先輩の紹介」が最も多くなっている。

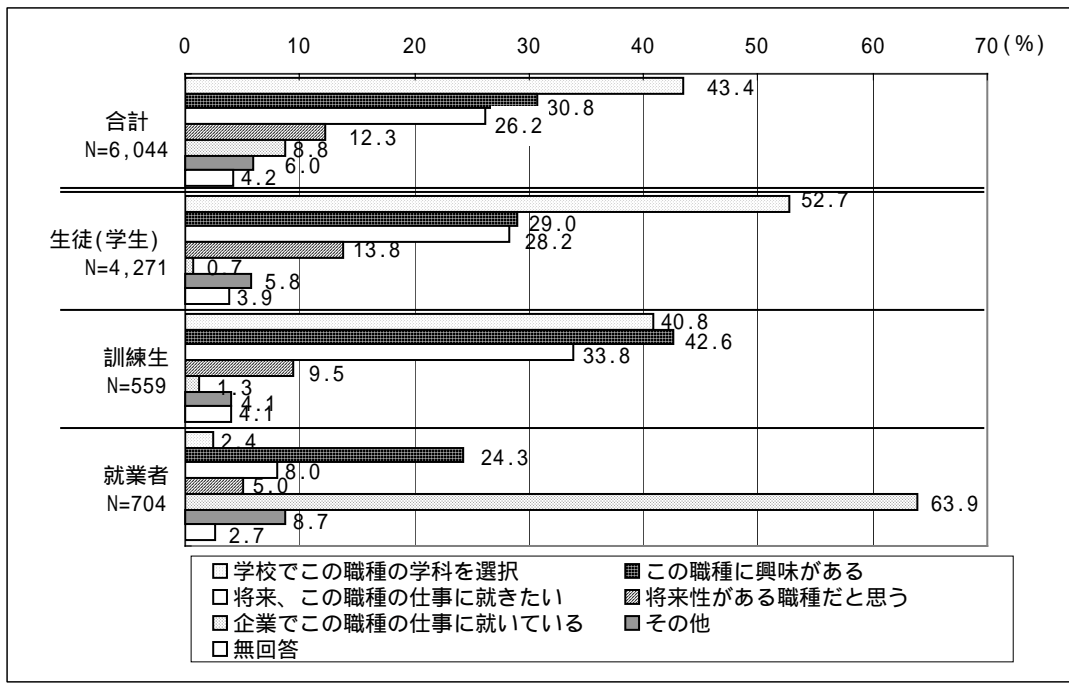
(13) 技能検定を受検しようと思った動機 [複数回答]



今回、技能検定を受検しようと思った動機について見ると、「技能を深める（自己啓発）ため」が 48.9%で最も多く、次いで「就職に有利だと思ったから」(45.1%)となっている。

受検者区分別に見ると、「生徒（学生）」は「就職に有利だと思ったから」が最も多く、「訓練生」、「就業者」は「技能を深める（自己啓発）ため」が最も多くなっている。

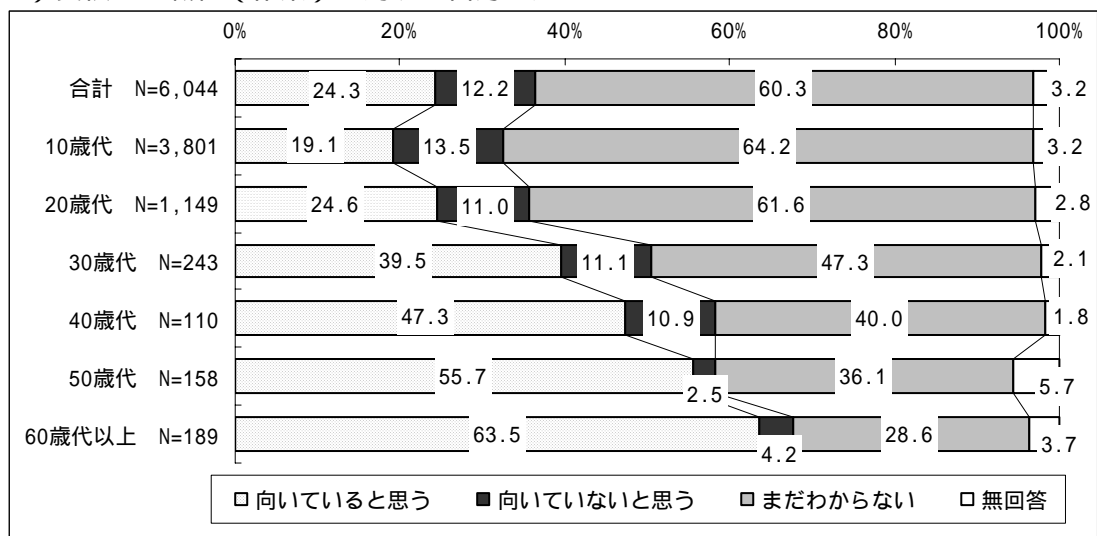
(14) 受検した職種（作業）を選択した理由 [複数回答]



受検した職種（作業）を選択した理由について見ると、「学校でこの職種の学科を選択しているから」が 43.4% で最も多く、次いで「この職種に興味があるから」(30.8%) となっている。

受検者区別に見ると、「生徒（学生）」は「学校でこの職種の学科を選択しているから」(52.7%)、「就業者」は「企業でこの職種の仕事に就いているから」(63.9%) が最も多くなっている。

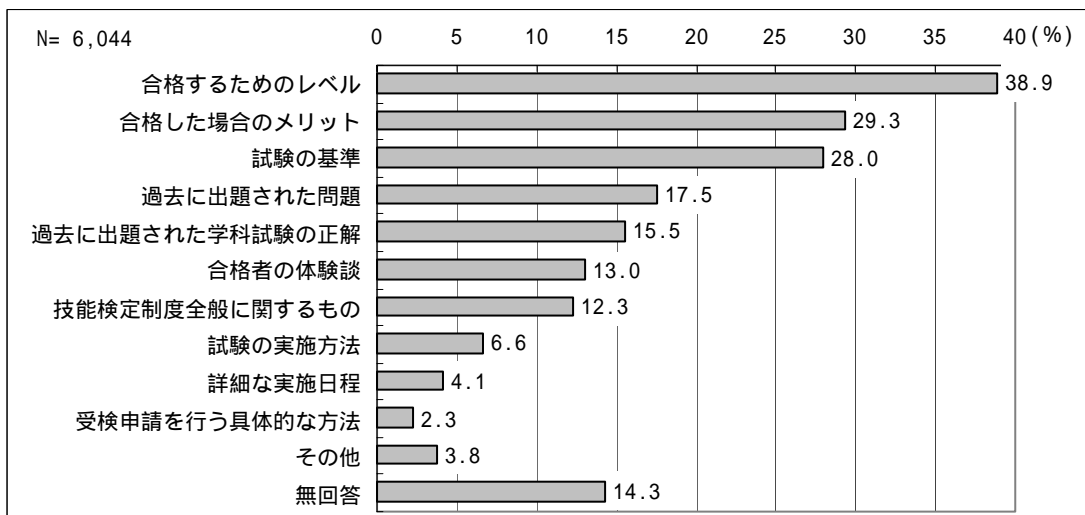
(15) 受検した職種（作業）に対する自身の適正



受検した職種（作業）に対する自身の適正について見ると、「まだわからない」が 60.3% で最も多くなっている。

年齢別に見ると、「10 歳代」では「まだわからない」が 64.2% で、反対に「60 歳代以上」では「向いていると思う」割合が 63.5% となっている。年齢が高くなるにつれ「向いていると思う」割合が高くなっている。

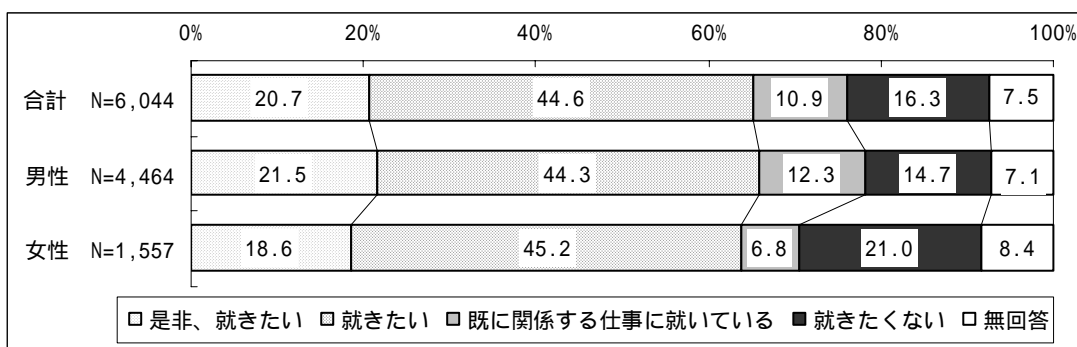
(16) 技能検定について欲しかった情報 [複数回答]



技能検定で欲しかった情報（手に入れることができなかった情報）について見ると、「合格するためのレベル」が 38.9%で最も高く、次いで「合格した場合のメリット」（29.3%）、「試験の基準（出題範囲）」(28.0%)となっている。「その他」には「試験会場の地図・行き方」という意見が多かった。

(17) 受験した職種（作業）に就くことについて

合格後、受験した職種（作業）に関する仕事に就くことへの希望

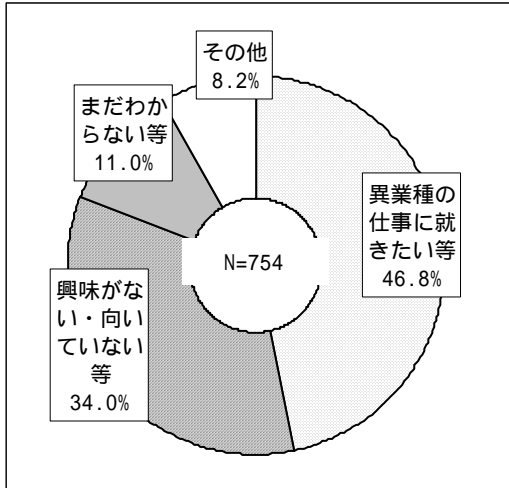


受験した職種（作業）に関する仕事に就くことへの希望について見ると、「就きたい」が 44.6%で最も多く、次いで「是非、就きたい」(20.7%)となっている。「是非、就きたい」、「就きたい」を合わせた割合が 65.3%で、全体の6割強を占めている。

性別に見ると、男女共に就きたい傾向となっているが、「女性」は「就きたくない」割合が 21.0%で「男性」(14.7%)より 6.3ポイント多くなっている。

受検した職種（作業）に就きたくない理由

で「受検した職種に就きたくない」と回答した 986 人に就きたくない理由を記述式で尋ねた。986 人中 754 人の回答を得ることができた。

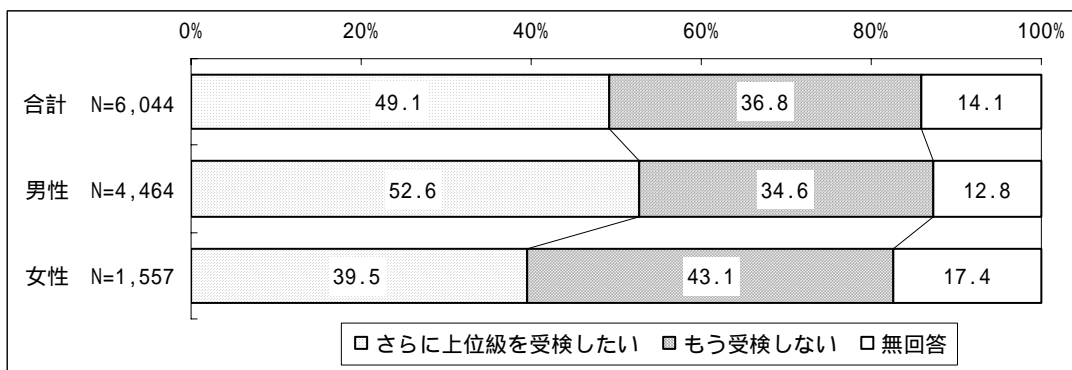


記述された内容を 4 つのカテゴリーに分類したところ、「異業種の仕事に就きたい等」という意見が 46.8% で最も多く、次いで「興味がない・向いていない等」(34.0%)となっている。

「異業種の仕事に就きたい等」に分類した内容としては、「他の業種に興味がある」、「やりたいことが他にある」という回答が多かった。

(18) 今後の受検予定について

今後の上位級（2 級等）への受検予定



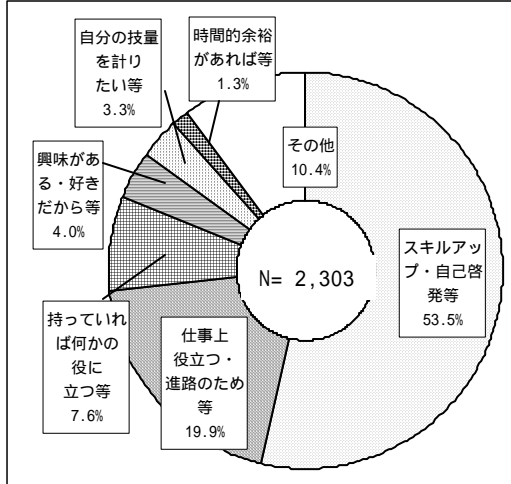
今後の上位級（2 級等）への受検予定について見ると、「さらに上位級を受検したい」が 49.1% で全体の半数近くを占めている。

性別に見ると、「男性」は「さらに上位級を受検したい」が 52.6% で半数以上を占めているのに対し、「女性」は「もう受検しない」が 43.1% で、「さらに上位級を受検したい」(39.5%) より 3.6 ポイント高くなっている。

受検した職種別に見ると、「さらに上位級を受検したい」割合が高い職種（作業）は「とび（とび作業）」(65.8%)、「仕上げ（機械組立仕上げ作業）」(64.5%) となっている。反対に割合が低い職種（作業）は「園芸装飾（室内園芸装飾作業）」(39.4%) となっている。

上位級を受検したい理由

で「さらに上位級を受検したい」と回答した2,970人に受検したい理由を記述式で尋ねた。2,970人中2,303人の回答を得ることができた。

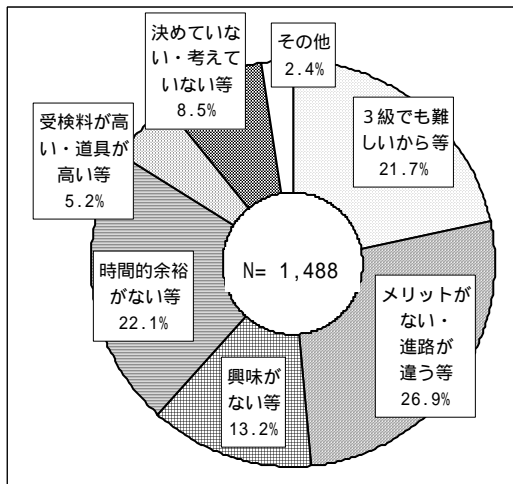


記述された内容を7つのカテゴリーに分類したところ、「スキルアップ・自己啓発等」という意見が53.5%で最も多く、次いで「仕事上役立つ・進路のため等」(19.9%)となっている。

「スキルアップ・自己啓発」に分類した内容としては、「自分のレベルを知るため」、「上位級があるから」、「技術・技能向上」という回答が多かった。

上位級を受検したくない理由

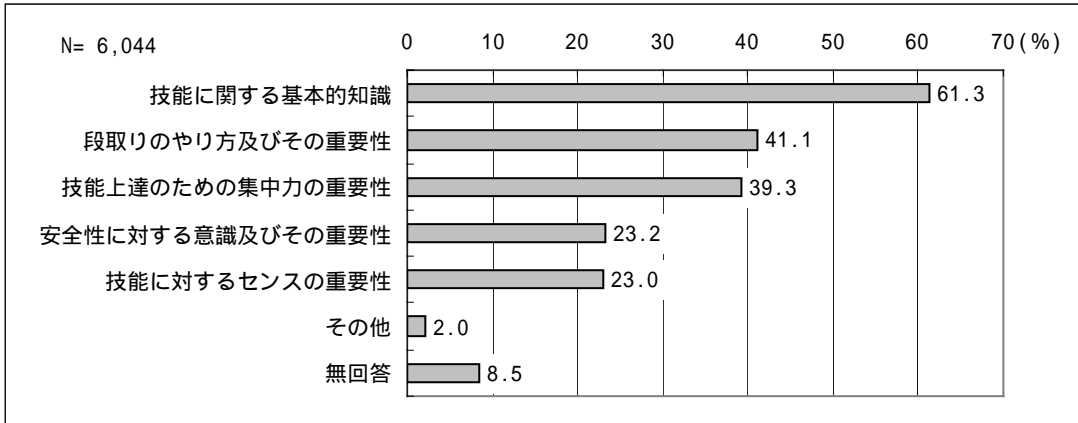
で「もう受検しない」と回答した2,224人に上位級を受検したくない理由を記述式で尋ねた。2,224人中1,488人の回答を得ることができた。



記述された内容を7つのカテゴリーに分類したところ、「メリットがない・進路が違う等」という意見が26.9%で最も多く、次いで「時間的余裕がない等」(22.1%)、「3級でも難しいから等」(21.7%)となっている。

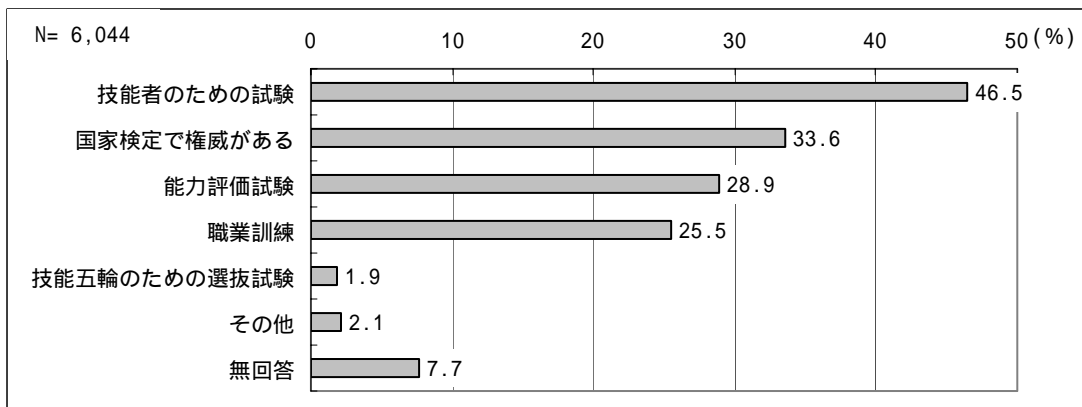
「メリットがない・進路が違う等」に分類した内容としては、「3級があれば十分」、「必要性がない」という回答が多かった。「時間的余裕がない等」に分類した内容としては、「練習する時間がない」という回答が多く、特に「生徒(学生)」、「訓練生」では「受検する機会がない」という回答が多かった。

(19) 技能試験の受検を通じて身についたこと [複数回答]



受検を通じて身についたと思うことについて見ると、「技能に関する基本的知識」が61.3%で最も多く、以下「段取りのやり方及びその重要性」(41.1%)、「技能上達のための集中力の重要性」(39.3%)となっている。

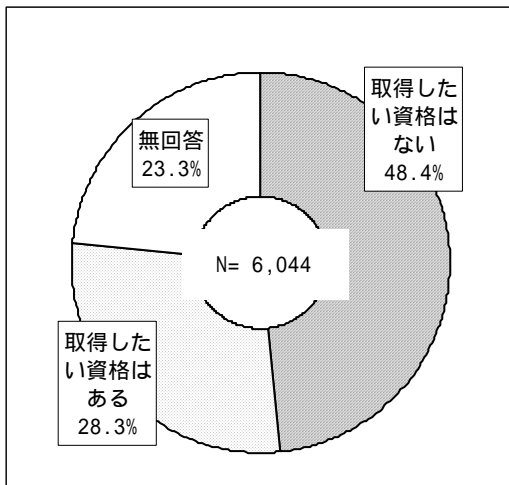
(20) 技能検定のイメージ [複数回答]



技能検定のイメージについて見ると、「技能者のための試験」が46.5%で最も多く、次いで「国家検定で権威がある」(33.6%)、「能力評価試験」(28.9%)となっている。

(21) 技能検定以外で、今後取得したい資格

技能検定以外で取得したい資格の有無



技能検定以外で、今後取得したい資格の有無について見ると、「取得したい資格はない」割合が 48.4%で半数近くを占めている。

受検者区分者別に見ると、「生徒（学生）」、「訓練生」は「就業者」に比べ、「取得したい資格はある」割合が高くなっている。

性別に見ると、「男性」は「取得したい資格はある」割合が 27.3%だが、「女性」は 31.5%で「男性」より 4.2 ポイント高くなっている。

取得したい資格

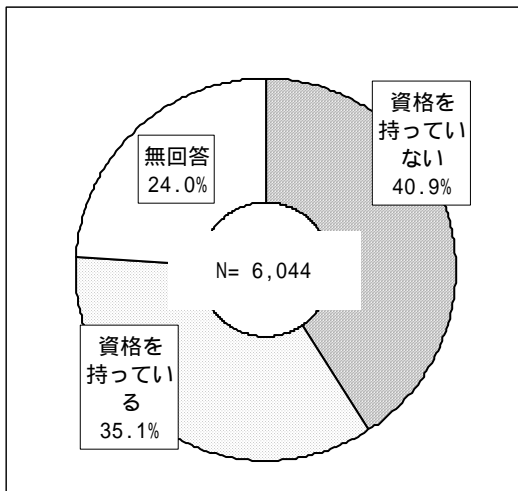
順位	資格名	件数
1	危険物関連	160
2	造園関連	76
3	電気工事関連	76
4	ボイラー関連	72
5	英検関連	56
6	カラーコーディネーター関連	52
7	フォークリフト関連	47
8	CAD関連	45
9	クレーン関連	39
10	玉掛け関連	36

で「取得したい資格はある」と回答した 1,711 人に取得したい資格名を記述式で尋ねた。

取得したい資格について見ると、「危険物関連」の資格が 160 件で最も多く、次いで「造園関連」(76 件)、「電気工事関連」(76 件)となっている。

(22) 既に取得している資格

取得している資格の有無



既已取得している資格の有無について見ると、「資格を持っていない」が40.9%、「資格を持っている」が35.1%となっている。

受検者区分者別に見ると、「就業者」の「資格を持っている」割合は28.7%と3割未満となっているが、「生徒(学生)」、「訓練生」では37.3%、32.2%と3割以上となっている。

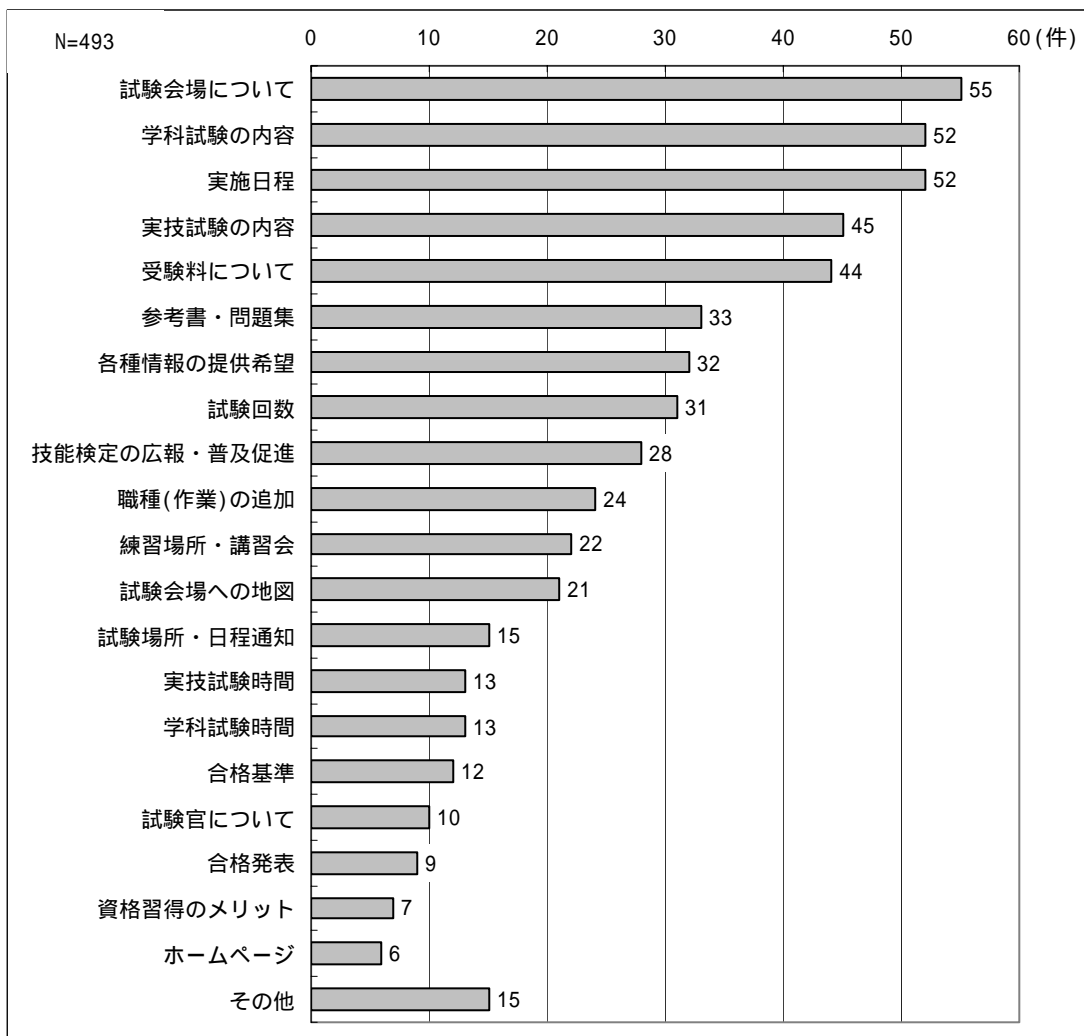
取得している資格

順位	資格名	件数
1	危険物関連	570
2	計算技術関連	156
3	漢字検定関連	150
4	ワープロ検定関連	149
5	ボイラー関連	137
6	ガス溶接関連	133
7	英検関連	124
8	クレーン関連	116
9	トレース関連	114
10	情報技術関連	112

で「資格を持っている」と回答した2,121人に取得している資格名を記述式で尋ねた。

取得している資格について見ると、「危険物関連」が570件で最も多く、次いで「計算技術関連」(156件)、「漢字検定関連」(150件)となっている。

(23) 技能検定についての要望 [複数回答]



技能検定についての要望を記述式で尋ねた。6,044 人中 493 人から回答を得ることができた。

一番多い意見・要望は「試験会場について」(55 件)で、次いで「学科試験の内容」(52 件)、「実施日程」(52 件)となっている。

意見・要望が多かった上位 3 項目に含まれる記述内容を下記にまとめた。

< 試験会場について >

- ・ 試験会場が遠い
- ・ 試験会場がわかりにくい

< 学科試験の内容について >

- ・ 試験問題が難しいので簡単にして欲しい

< 実施日程 >

- ・ 試験の回数を増やして欲しい
- ・ 合格発表の時期を早めて欲しい

第3章 調査のまとめ

現在、学校を取り巻く状況として生徒の就職難の問題が全国的にあり、これに対応するため、生徒に資格の取得を奨励する傾向が強く、こういった状況の中、3級技能検定については、製造業・建設業をはじめ世間の認知度が高く、また、技能教育の目標として適度な目標ともなり得ることから、取得を奨励する資格に挙げる、技能教育の目標として設定する等といった取り組みを進めている学校が見受けられ、全国にまで広がっていないが、一部においては積極的に活用されている実態が明らかになった。また、取り組みが全国にまで広がっていない理由として、技能検定のことがあまり知られていない、技能教育を行う際に、技能教育ができる教員が必ずしもいない、所要の設備がない、学校教育として行わなければならないカリキュラムがある、といった様々な制約があることも明らかになった。

一方、企業を取り巻く状況として技能労働者の確保の問題があり、企業は自社内で訓練・育成を行うことによりこれに対応してきているところであるが、企業においては、利益を追求するために経済活動を行わなければならないことから、所要の技能を有しているとして評価する者は2級からとする傾向があり、3級技能検定については、企業において必要とする技能のレベルに至っていない等の理由により、技能面においては必ずしも評価の対象とはなっていない実態が明らかになった。また、これに併せて技能面以外の評価ではあるが、生徒を対象とする採用の選考に当たっては、当該生徒がやる気を有することを証するものとして3級技能検定に合格していることを評価の対象とする傾向があることも明らかになった。

以上の結果を踏まえ、本調査においては、今後3級技能検定を普及・促進していくために、学校に対しては、広報をより一層充実させていくこと、企業に対しては、技能労働者であれば必ず必要とされる技能を3級技能検定は評価するような制度の整備をより一層進めていくこと、がそれぞれ重要であるとの結論に至った。